

取扱説明書

TS 242

エタノールの比率が 10 % (E10) 以下のガソリンは、本機に使用できます。エタノールの比率が 10 % (E10) を超える超のガソリンの使用は、製品保証の対象外となります。



Japanese

114 14 44-79



この説明書をよく読み内容をしっかり把握したうえで、本機を使用してください。



安全注意事項



乗用芝刈機の安全な使用方法

危険:本機は、手足を切ったり、物体を飛ばしたりするおそれがあります。安全注意事項に従わないと、重傷または死亡事故の原因となる可能性があります。



警告:セットアップ、搬送、調整、または修理時に誤って始動することがないように、必ずスパークプラグワイヤーを外し、スパークプラグに接触しない場所にワイヤーを置いてください。



警告:ニュートラルで下り斜面を走行しないでください。トラクターのコントロールがきかなくなる可能性があります。



警告:お使いのトラクターのメーカーが推奨し、その仕様に適合するアタッチメントのみを牽引してください。牽引する場合は常識に従ってください。斜面では、可能な限り低速で運転してください。斜面では、重すぎる荷物は危険です。タイヤが地面とのトラクションを失い、トラクターのコントロールが効かなくなるおそれがあります。



警告

エンジンからの排気、その成分の一部、および本機の特定の部品には、カリフォルニア州の「がん、先天性欠損症、またはその他の生殖危害を引き起こすことがある化学物質リスト」の物質が含まれたり放出されます。



警告

バッテリーポスト、端子、および関連アクセサリには、カリフォルニア州の「がん、先天性欠損症、またはその他の生殖危害を引き起こすことがある化学物質リスト」の鉛および鉛化合物、化学物質が含まれます。使用後は手を洗ってください。

I. 子供



警告!子供はこの装置によって怪我をするおそれがあります。米国小児科学会は、歩行制御芝刈機の操作は 12 才以上、乗車芝刈機の操作は 16 才以上を推奨しています。



警告!子供はこの装置によって重傷を負ったり、死亡したりするおそれがあります。以下の安全注意事項をすべてよく読んで遵守してください。

作業者が子供の存在に注意を払わないと、重大な事故を引き起こすおそれがあります。子供は機械類や芝刈り作業に関心を示す傾向があります。最後に見た場所に子供がずっと留まっているとは考えないでください。

- 子供を芝刈り範囲から遠ざけ、作業者**以外**の責任ある大人が注意を払ってください。
- 子供がこの範囲に入った場合は、注意を払い、本機をオフにしてください。
- 後退する前と後退中には、後ろと下を見て、小さな子供がいないことを確認してください。
- ブレードが停止している状態でも、決して子供を乗せないでください。落下して重傷を負ったり、本機の安全な運転を妨げたりする可能性があります。過去に乗ったことのある子供は、もう一度乗ろうと芝刈り範囲に突然現れ、本機の前進または後進時に下敷きになるおそれがあります。

- 決して子供に本機を操作させないでください。
- 死角、低木、樹木、その他物体に隠れて子供が見えない場合があるため、これらに接近する際は、十分に注意してください。

II. 作業全般

- 作業を開始する前に、本機および取扱説明書に記載されたすべての指示を読み、内容を理解し、それに従ってください。
- 回転部品の近くや本機の下に手や足を置かないでください。いかなるときでも排出口に近づかないようにしてください。
- 取扱方法に精通した責任ある大人のみが本機を操作するようにしてください。
- ブレードが拾ったり飛び散らせたりする可能性のある、岩、玩具、ワイヤーなどの物体を作業範囲から取り除いてください。
- 操作する前に、作業範囲に人がいないことを確認してください。誰かが作業範囲に入ってきた場合は、本機を停止してください。
- 決して人を乗せないでください。
- どうしても必要でない限り、後退での芝刈はしないでください。後退する前と後退中には、常に下と後ろに注意してください。
- 排出物を決して人に向けないでください。壁や障害物に向けて排出することも避けてください。排出物が跳ね返り、作業者に向かって飛ぶことがあります。砂利が敷かれた地面を横切るときは、ブレードを停止してください。
- 必ず、グラスキャッチャー全体、排出口、またはその他安全装置を装着し、作動させてから、本機を操作してください。
- 旋回する前には減速してください。
- 決して運転中の本機を無人状態にしないでください。取り外す前に、必ずブレードをオフにし、駐車ブレーキをかけ、エンジンを停止し、キーを取り外してください。
- 芝刈りをしないときは、ブレードを外してください。本機を掃除したり、グラスキャッチャーを取り外したり、排出口の詰まりを解消したりする場合には、エンジンを停止し、すべての部品が完全に停止するのを待って行ってください。
- 日光または十分な人工光のもとで本機の操作を行ってください。
- アルコールや薬物の影響を受けているときは、本機を操作しないでください。
- 道路の近くにいる場合や横断する場合には、交通に注意してください。
- 本機をトレーラーやトラックに積んだり、下ろしたりする際は、十分に注意してください。
- 本機を操作するときは、常に防護メガネを着用してください。
- 聴覚に障害を受けまいよう、イヤマフを使用してください。
- 芝刈機が関係する負傷の大半が、60 歳以上の作業者によるものというデータがあります。このような作業者は、芝刈機に乗って安全に操作できる十分な能力があるかどうかを評価して、自身や他の人を重傷から守る必要があります。
- ホイールウェイトまたはカウンターウェイトについては、メーカーの推奨事項に従ってください。
- 本機に草、葉、その他の異物が付着していない状態を保ってください。このような異物は、高温の排気やエンジン部品に触れて、燃えるおそれがあります。芝刈機デッキで葉や他の異物を鋤かないでください。異物が堆積するおそれがあります。本機を操作または保管する前に、こぼれたオイルや燃料をきれいに拭き取ってください。保管する前に本機を冷ましてください。



安全注意事項

乗用芝刈機の安全な使用方法



III. 斜面の運転



警告! 本機を積み込んだり、下ろしたりする際は、推奨の最大操作角度 15° を超えないようにしてください。

斜面は、制御不能や転倒事故を引き起こす主な原因であり、重傷や死亡に至るおそれがあります。斜面での作業には常に十分注意してください。斜面を後退で上がれない場合、またはこの操作に不安を感じる場合、芝刈作業をしないでください。

- 斜面では横断方向ではなく、上下に刈るようにしてください。
- 穴、わだち、隆起、岩、その他隠れた物体に注意してください。起伏のある地形では、本機が転倒するおそれがあります。長い芝の中に障害物が隠れていることがあります。
- 低速で走行し、斜面で停止したりシフトしたりする必要がないようにしてください。
- 濡れた芝は刈らないでください。タイヤがトラクションを失うおそれがあります。斜面を下るときは、常に本機のギヤを入れた状態にしてください。
- 坂でニュートラルにして惰性走行させないでください。
- 斜面では、始動、停止、方向転換を行わないでください。タイヤがトラクションを失った場合は、ブレードを取り外し、ゆっくりと斜面を下らせてください。
- 斜面ではすべての動きをゆっくりと段階的に行ってください。速度や方向を突然変更しないでください。本機が横転するおそれがあります。
- グラスキャッチャーまたはその他のアタッチメントを装着した本機を運転する際は、十分に注意してください。本機の安定性に影響を与えることがあります。急斜面では使用しないでください。
- 本機を安定させようとして地面に足をつけないでください。
- 断崖、溝、土手の近くで芝刈りをしないでください。ホイールがそれらの縁に達したり、縁が崩れたりすると、本機が急に横転するおそれがあります。
- 上り坂を走行中に本機が停止した場合は、ブレードを取り外し、シフトを後進に入れてゆっくりと後退してください。
- 必要な場合以外は斜面で方向転換しないでください。可能な場合は、ゆっくりと方向転換し、少しずつ斜面を下ってください。



IV. 牽引

- 牽引用に設計されたヒッチを装備した車両でのみ牽引してください。牽引する装置はヒッチポイント以外に取り付けられないでください。
- 牽引する装置の重量制限および斜面での牽引については、メーカーの推奨事項に従ってください。
- 牽引する装置に決して子供や人を入れたり、乗せたりしないでください。
- 斜面では、牽引する装置の重量によってトラクションが失われ、コントロールを失うことがあります。
- ゆっくりと走行し、停止するための距離を長めにとります。

V. サービス

ガソリンの安全な取り扱い

怪我や物的損害を防ぐために、ガソリンの取り扱いには細心の注意を払ってください。ガソリンは強い引火性があり、気体は爆発性があります。

- タバコ、葉巻、パイプ、その他の発火源をすべて消します。
- 認証されたガソリンコンテナのみを使用してください。

- エンジンが作動している状態で、ガスキャップを取り外したり、燃料を補給したりしないでください。
- 給油前にエンジンを冷ましてください。
- 本機への給油は決して室内で行わないでください。
- 本機または燃料容器を、裸火、火花、または種火(温水器などの機器)がある場所に決して置かないでください。
- 車内のコンテナや、トラックやトレーラーのプラスチックライナーが敷かれた荷台の上のコンテナに決して充填しないでください。充填する際は、常に車から離れた地面へコンテナを置いてください。
- トラックまたはトレーラーからガソリン式装置を取り外し、地上で給油してください。これが不可能な場合、ガソリンディスプレイサーズルからではなく、ポータブルコンテナを使って給油してください。
- 給油が完了するまで、ノズルが燃料タンクまたはコンテナ開口部の縁に触れている状態を保ってください。ノズルのロック開放装置は使用しないでください。
- 衣服に燃料がこぼれた場合は、すぐに衣服を着替えてください。
- 決して燃料タンクに燃料を入れ過ぎないでください。ガスキャップを元に戻し、しっかりと締めます。

運用全般

- 本機を決して密閉された場所で運転しないでください。
- すべてのナットとボルトをしっかりと締め、装置が安全に作動する状態であることを確認してください。
- 決して安全装置を改造しないでください。決して安全装置の目的の機能を妨害したり、安全装置による保護を低下させたりしないでください。正常に動作するか定期的に点検してください。決して適切に機能しない安全装置を使用して本機を操作しないでください。
- 草、葉、その他の異物が堆積しないように本機を管理してください。こぼれたオイルまたは燃料を清掃するとともに、燃料が染み込んだ異物も除去してください。保管する前に、本機を冷ましてください。
- 異物にぶつかった場合は、本機を停止して点検してください。必要に応じて、再始動する前に修理してください。
- エンジンを作動させた状態で決して調整や修理を行わないでください。
- グラスキャッチャーの部品と排出口を頻繁に点検し、必要な場合、メーカー推奨の部品と交換してください。
- 芝刈機のブレードは鋭利です。サービスを行う際には、ブレードを包むか、グローブをはめて、十分に注意して作業を行ってください。
- 頻繁にブレーキの動作を点検してください。必要に応じて、調整およびサービスを行ってください。
- 安全ラベルおよび指示ラベルのメンテナンスを行い、必要に応じて交換してください。



聴覚に障害を受けないよう、イヤマフを使用してください。



本機を操作するときは、常に防護メガネを着用してください。

製品仕様

ガソリン容量 および種類:	3.0 ガロン／11.35 リットル レギュラー無鉛
電気定格*:	13.4 kW @ 3600 RPM
オイルの種類: (API:SJ-SN)	SAE 30 (32°F/0°C 以上) SAE 5W30 (32°F/0°C 未満)
オイル容量:	フィルタ付き: 64 オンス／1.89 リットル フィルタなし: 52 オンス／1.5 リッ トル
スパークプラグ:	BPR4ES (ギャップ:.030 インチ／0.76 mm)
充電システム:	15 アンペア @3600 RPM
バッテリー:	アンペア／時: 28 最小 CCA: 230 ケースサイズ: U1R
ブレードボルトトル ク:	45～55 フィートポンド／62～75 Nm

* エンジンのメーカーが公表している電気定格は、エンジンの総電気出力に関する SAE 基準を使用して測定したエンジンモデルの、一般生産エンジンの指定 RPM における平均総電気出力です。詳細については、エンジンのメーカーにお問い合わせください。

新しいトラクターをご購入いただき、ありがとうございます。本機は最高の信頼性とパフォーマンスを発揮できるように設計、製造されています。

万が一、何らかの問題があり、簡単に修繕できない場合は、最寄りのサービス代理店にお問い合わせください。当社には、有能な熟練技術者と、このトラクターのサービスや修理を行うために最適な工具が揃っています。

この取扱説明書をお読みの上、保管してください。この取扱説明書を読むことにより、トラクターの組み立てとメンテナンスを適切に行うことができます。「安全注意事項」に常に従ってください。

お客様側の責任

- 安全注意事項を読み、遵守してください。
- 定期スケジュールに従って、トラクターのメンテナンス、手入れ、使用を行ってください。
- この取扱説明書の「メンテナンスと保管」セクションに記載されている指示に従ってください。
- 本機操作の際は、(最低限)丈夫な履物、防護メガネ、イヤマフを含む適切な身体保護具を身に着けてください。短パンやつま先の開いた履物で芝刈をしないでください。
- 戸外で芝刈に従事するときは、常にその旨を誰かに伝えてください。

警告: このトラクターには内燃エンジンが搭載されています。そのため、地域の法律または州法(ある場合)に適合するスパークアレスターが装備されていない限り、手入れされていない森林や雑木林、草に覆われた土地内またはその近くでトラクターを使用しないでください。スパークアレスターを使用する場合、作業者は適切な作業手順でメンテナンスする必要があります。

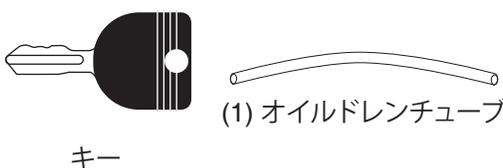
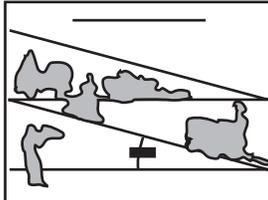
マフラーのスパークアレスターは、最寄りのサービス代理店で入手できます。

目次

安全規則	2～3
製品仕様	4
お客様側の責任	4
組み立て	5～6
操作	7～13

メンテナンスのスケジュール	14
メンテナンス	14～18
サービスと調整	19～24
保管	25
トラブルシューティング	26～27

未組み立て部品

<p>キー</p>  <p>キー</p> <p>(1) オイルドレンチューブ</p>	<p>傾斜シート</p> 	<p>バッテリー</p>  <p>(2) 六角ボルト</p> <p>(2) 六角ナット</p>	<p>*ディーラーで取り付け済</p> <p>*ブラシガードキット</p>
---	--	---	---------------------------------------

組み立て

お客様の新しいトラクターは、搬送のために未組み立ての部品を除き、工場で組み立てられています。

組み立てに必要な工具

ソケットレンチセットがあると、組み立てが容易になります。標準のレンチサイズは以下のとおりです。

- (1) 1/2 インチレンチ タイヤ空気圧ゲージ
- (2) 7/16 インチレンチ ユーティリティナイフ プライヤー

この取扱説明書で、右側または左側とは、操作位置（運転席に座っている）から見た場合を指します。

カートンのトラクターの取り出し

カートンの開梱

- バラのパーツとパーツカートンをすべてカートンから取り出します。
- エンドパネルを取り外し、サイドパネルを平らに寝かせます。
- 他にバラのパーツやカートンがないか確認し、あれば取り出します。

トラクターをスキッドから取り外す前に

バッテリーの接続 (図 1)



警告: バッテリー端子が短絡することを防ぐため、レンチなどの物体が両方の端子に同時に接触しないようにしてください。バッテリーを接続する前に、金属製のプレスレットや腕時計、指輪などを取り外しておいてください。火花で短絡することがないように、プラス端子を先に接続する必要があります。

注記: バッテリーをラベル表示の年月後（ラベルは端子の間にあります）に使用する際は、6 ~ 10 アンペアで最低 1 時間バッテリーを充電してください。（充電方法については、この取扱説明書の「メンテナンス」セクションの「バッテリー」を参照してください。）

- バッテリーの位置を確認します。バッテリーは、シートまたはフードの下にあります。
- 座席底面またはフードを上げます。
- 2 つの端子のキャップを外して廃棄します。
- まず、図のように、プラス (+) 端子に赤のバッテリーケーブルをボルトとナットで接続します。しっかり締め込みます。端子カバーを端子の上にスライドさせます。
- もう 1 組のボルトとナットで、黒アースケーブルをマイナス (-) 端子に接続します。しっかり締め込みます。
- 座席底面またはフードを下げます。

注記: この取扱説明書の「サービスと調整」セクションの「バッテリーの交換」を参照してください。

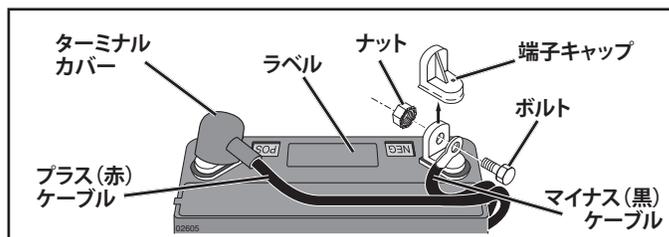


図 1

シートの調整 (図 2 参照)

- シートに座ります。
- 調整レバー (A) を持ち上げ、クラッチ/ブレーキを最後まで踏み込める適切な位置までシートをスライドさせます。
- レバーを放すと、シートがその位置に固定されます。

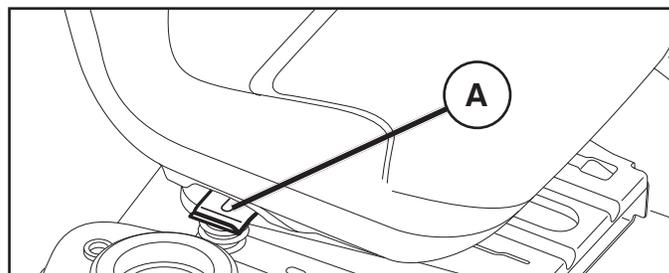


図 2

組み立て

注記:これで、トラクターをスキッドから降ろすことができます。続いて、指示に従ってトラクターをスキッドから降ろします。

警告:作業を開始する前に、本書の「操作」セクションに記載されているすべての指示を読み、理解し、これに従ってください。トラクターが換気の良い場所にあることを確認してください。トラクターの前のエリアに人や物がいないことを確認してください。

トラクターをスキッドから降ろす(コントロールの位置と機能については、「操作」セクションを参照してください)

- アタッチメントリフトレバーを一番高い位置まで上げます。
- クラッチ/ブレーキペダルを踏み込んで駐車ブレーキを解除します。
- フリーホイールコントロールを「TRANSMISSION DIS-ENGAGED (トランスミッション解除)」位置にします。(この取扱説明書の「操作」セクションの「搬送」を参照してください。)
- トラクターをスキッドから前方に動かして降ろします。
- デフレクタシールドをトラクターに固定している固定具を取り外します。

次の手順に進みます。

タイヤの空気圧点検

出荷時のトラクターのタイヤは、搬送のために工場で過充填されています。最高の刈り込み性能を得るには、タイヤの空気圧を正しく調整することが大切です。

- タイヤに記載されている数値までタイヤの空気圧を下げます。

デッキの水平の確認

最適な刈り込み性能を発揮させるために、芝刈機のハウジングを正しく水平にする必要があります。この取扱説明書の「サービスと調整」セクションの「芝刈機の水平調整」を参照してください。

すべてのベルトの位置の点検

この取扱説明書の「サービスと調整」セクションにある、作動ドライブベルトおよび芝刈機ブレードドライブベルトの交換に関する図を参照します。ベルトが正しい場所を通っていることを確認します。

ブレーキシステムの点検

ブレーキが正常に作動しているか、トラクターの操作方法を習得した人が確認してください。この取扱説明書の「サービスと調整」セクションの「ブレーキの点検」を参照してください。

✓ チェックリスト

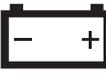
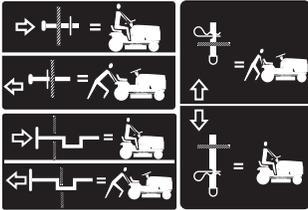
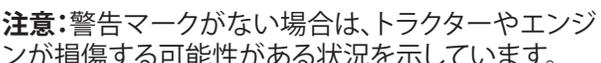
新しいトラクターをお使いいただく前に、高い品質を誇るこの製品が最高の性能を発揮し、お客様にご満足いただける状態であるかをご確認いただくことをお勧めします。

次のチェックリストをご利用ください。

- ✓ すべての組立手順が完了しています。
 - ✓ カートンの中にバラのパーツが1つも残っていません。
 - ✓ バッテリーが適切に準備され、充電されています。
 - ✓ シートが快適に調整され、しっかり固定されています。
 - ✓ すべてのタイヤが適切な空気圧に調整されています。(タイヤは、搬送のために工場で過充填されています。)
 - ✓ 最高の芝刈り性能が発揮されるよう、芝刈機デッキの左右および前後の水平が適切にとられています。(水平をとるには、タイヤの空気圧が適切でなければなりません。)
 - ✓ 芝刈機およびドライブベルトを点検してください。ベルトがプーリーに適切に取り回され、すべてのベルト通しに通されていることを確認してください。
 - ✓ 配線を点検してください。すべての接続が確実に確保され、配線が適切に留められていることを確認してください。
 - ✓ トラクターを運転する前に、フリーホイールコントロールが「TRANSMISSION ENGAGED (トランスミッション作動)」位置になっていることを確認してください(この取扱説明書の「搬送」セクションを参照してください。)
- トラクターの使用方法を学ぶ際には、次の重要事項に特に注意してください。
- ✓ エンジンオイルの油面が適切です。
 - ✓ 燃料タンクに新しくきれいなレギュラー無鉛ガソリンが充填されています。
 - ✓ すべてのコントロール、その場所、機能についてよく理解してください。エンジンを始動する前にコントロールを操作してみてください。
 - ✓ ブレーキシステムが安全に作動する状態か確認してください。
 - ✓ オペレータ着座検知システムと後退操作システム(ROS)が正常に作動していることを確認してください。(この取扱説明書の「操作」と「メンテナンス」のセクションを参照してください。)
 - ✓ 初めてトラクターを運転する前に、必ずトランスミッションをパーズしてください。始動とトランスミッションのパーズは、正しい手順で行ってください。(この取扱説明書の「エンジンの始動」および「トランスミッションのパーズ」のセクションを参照してください。)

操作

これらの記号は、本機上または製品同梱の印刷物に表示されています。これらの意味を知り、理解してください。

 後退	 ニュートラル	 高	 低	 チョーク	 高速	 低速	 イグニッションスイッチ
 エンジンオフ	 エンジン始動	 エンジンオン	 個別ロック	 クラッチ/ブレーキペダル	 駐車ブレーキ	 芝刈機高さ	 芝刈機リフト
 後退操作システム (ROS)	 後退	 前進	 クルーズコントロール	 ライト点灯	 燃料	 バッテリー	 イヤマフの装着を推奨
 クラッチ装着なし	 クラッチ装着中	 危険、手や足を近づけない	 周囲の安全確認 (安全注意事項を参照)		 勾配注意		
 フリーホイール (自動モデルのみ)		 危険: 防止策をとらなかった場合、死亡または重傷を負う可能性が高い危険な状況を示します。	 警告: 防止策をとらなかった場合、死亡または重傷を負う可能性がある危険な状況を示します。	 注意: 防止策をとらなかった場合、軽中度の負傷を負う可能性がある危険な状況を示します。	 注意: 警告マークがない場合は、トラクターやエンジンが損傷する可能性がある状況を示しています。		
 注意事項に従わないと重傷や死に至る可能性があります。安全性警告マークは、死亡、重傷、または物体の損傷を引き起こす可能性のある危険についての安全情報であることを示します。		 表面高温: 防止策をとらなかった場合、死亡、重傷、または物体の損傷を引き起こす可能性のある危険な状況を示します。	 火災: 防止策をとらなかった場合、死亡、重傷、または物体の損傷を引き起こす可能性のある危険な状況を示します。				

操作

トラクターについて

トラクターを運転する前に、この取扱説明書と安全注意事項をお読みください

図をトラクターと比較して、各種コントロールとレバー等の位置を確認してください。この取扱説明書は、いつでも参照できるように保管してください。

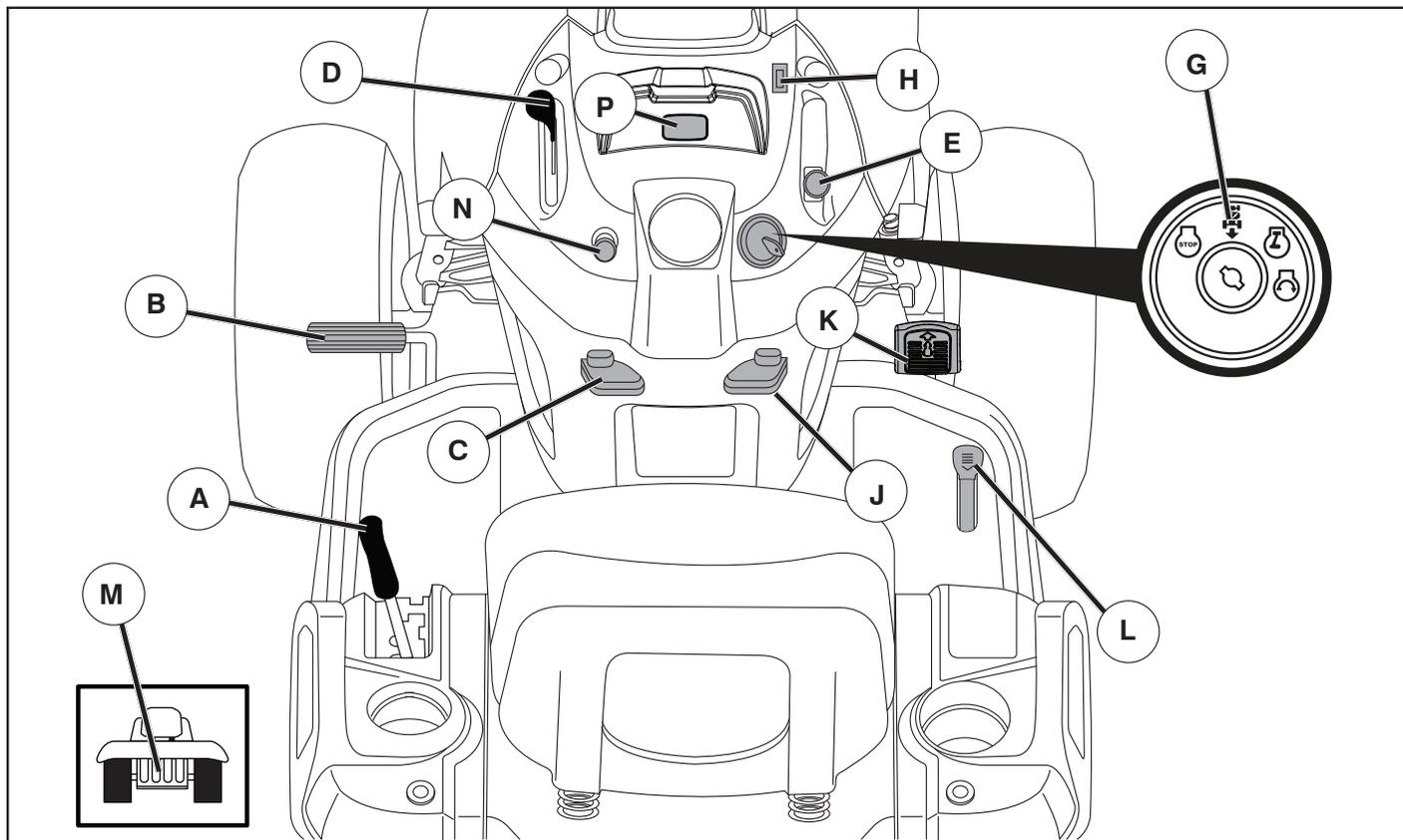


図 3

ハスクバーナのトラクターは、米国国家規格協会の所定の安全基準に準拠しています。

(A) アタッチメントリフトレバー - 芝刈機や、トラクターに取り付けられているその他のアタッチメントを上下したり、調整したりするのに使用します。

(B) ブレーキペダル - トラクターのブレーキ操作とエンジンの始動に使用します。

(C) 駐車ブレーキ - ブレーキペダルをブレーキ位置にロックします。

(D) スロットルコントロール - エンジン速度の制御に使用します。

(E) アタッチメントクラッチスイッチ - 芝刈機のブレードや、トラクターに取り付けられているその他のアタッチメントを作動させるために使用します。

(G) ROS「オン」位置 - 後退時に芝刈機デッキやその他の動力アタッチメントの操作を可能にします。

(H) ライトスイッチ - ヘッドライトのオン・オフをします。

(J) クルーズコントロールレバー - 前進ペダルを踏まなくてもトラクターが所定の速度で前進するように設定できます。

(K) 前進ペダル - トラクターを前進させるのに使用します。

(L) 後退ペダル - トラクターを後退させるのに使用します。

(M) フリーホイールコントロール - トランスミッションを解除して、エンジンを停止した状態でトラクターを押したり、ゆっくり牽引したりできるようにします。

(N) チョークコントロール - 冷機エンジンを始動するときに使用します。

(P) サービスマインダ/時間計 - エンジンと芝刈機のサービス時期が分かります。

操作



トラクターの運転時は、目に異物が混入し、目に深刻な損傷を受ける可能性があります。トラクターの運転、調整、または修理を行う際は、必ず保護メガネやアイシールドを着用してください。標準的な保護メガネか、眼鏡の上に装着できる視野の広いセーフティグラスをお勧めします。

トラクターの使用方法

駐車ブレーキの設定 (図 4 参照)

本トラクターには、オペレータ着座検知スイッチが装備されています。エンジンがかかっている時に操縦者が駐車ブレーキをかけないで座席を離れようとする、エンジンを停止します。

- ブレーキペダル(B)を完全に押し下げて保持します。
- 駐車ブレーキレバー(C)を引き上げて保持し、ブレーキペダル(B)を解放してから、駐車ブレーキレバーを放します。ペダルがブレーキ位置で固定されます。駐車ブレーキによってトラクターが確実に保持されていることを確認します。

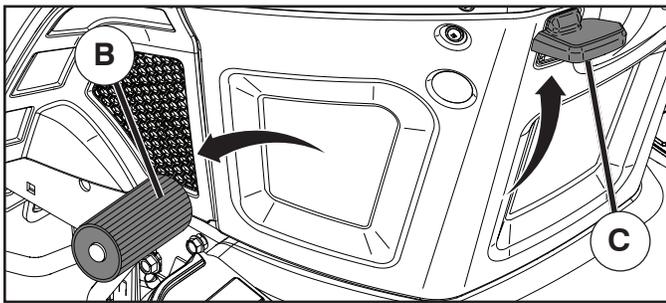
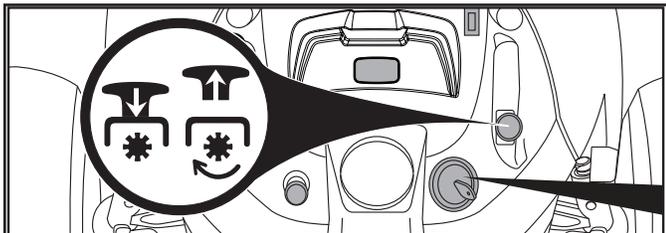


図 4

停止 (図 5 参照)

芝刈機のブレード -

- 芝刈機のブレードを停止させるには、アタッチメントクラッチコントロールを「DISENGAGED (解除)」位置 (※) にします。



(※) アタッチメントクラッチスイッチ「解除」

(※) アタッチメントクラッチスイッチ「作動」

図 5

グラウンドドライブ -

- グラウンドドライブを停止するには、ブレーキペダルを完全に「ブレーキ」位置まで踏み込みます。

重要: 前進および後退ドライブペダルを踏んでないときは、ニュートラル位置に戻ります。

エンジン -

- スロットルコントロール(D)を低速位置に動かします。

注記: 停止前にスロットルコントロールを低速位置に移動してエンジンをアイドリングさせないと、エンジンが「バックファイヤー」を起こすことがあります。

- スタータキー(F)を回して「停止」位置にし、キーを抜きます。無断使用を防止するため、トラクターを離れるときは必ずキーを抜いてください。
- 決してチョークを使用してエンジンを停止しないでください。

重要: イグニッションスイッチを「停止」以外の位置にしておくと、バッテリーが放電して使用できなくなります。

注記: トラクターのエンジンがかかっている状態でアイドリング状態のときに、高温のエンジン排気ガスによって芝が変色することがあります。そうならないようにするために、芝のある場所でトラクターを停止する場合は必ずエンジンを停止してください。



注意: 上記の手順に従ってトラクターを完全に停止し、必ず駐車ブレーキをかけてから、運転席を離れるようにしてください。

スロットルコントロール(D)の使用 (図 6 参照)

エンジンは常に最高速度(高速)で運転してください。

- エンジンを最高速度(高速)未満で運転すると、エンジンの運転効率が低下します。
- 最高速度(高速)で運転することで、芝刈機の性能が最大に発揮されます。

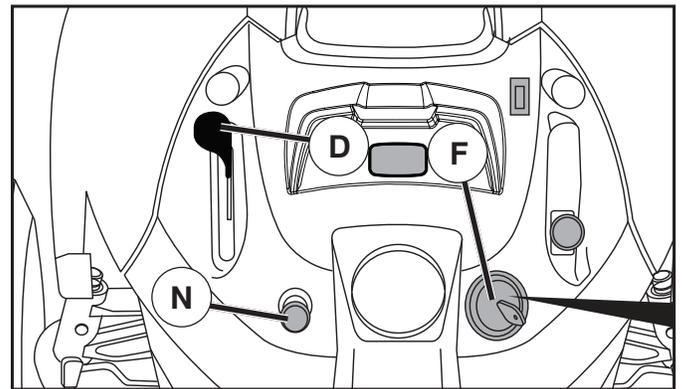


図 6

チョークコントロール(N)の使用 (図 6 参照)

冷機エンジンを始動するには、チョークコントロールを使用してください。暖まったエンジンを始動する際には使用しないでください。

- チョークコントロール(N)を使用するには、ノブを引き出します。戻すにはノブをゆっくりと押し込みます。

操作

前進と後退(図7参照)

移動方向と速度は前進/後退駆動ペダルによって制御されます。

- ・ トラクターを始動し、駐車ブレーキを解除します。
- ・ ゆっくりと前進(K)または後退(L)ドライブペダルを踏み込み、移動を開始します。ペダルを深く踏み込むほど、移動速度が増します。

クルーズコントロール(J)の使用(図7参照)

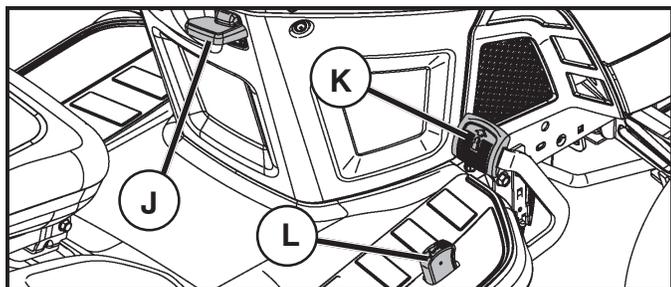


図7

クルーズコントロール機能は、前進時にのみ使用できます。

システムの特徴

クルーズコントロールは、比較的滑らかで整理された地面での芝刈りまたは搬送にのみ使用してください。低速での刈り取りなど、他の条件下で使用すると、クルーズコントロールが解除されることがあります。クルーズコントロールは、斜面や起伏の多い地形や、芝刈り中や旋回中には使用しないでください。

- ・ 前進ドライブペダルを任意の速度まで踏み込んだ状態で、クルーズコントロールレバー(J)を引き上げて保持しながらペダルから足を外し、レバーを放します。

クルーズコントロールを解除するには、ブレーキペダルを踏むか、前進ドライブペダルを軽く1度踏みます。

芝刈機の刈高調整(図8参照)

アタッチメントリフトレバー(A)の位置によって、刈高が決まります。

- ・ アタッチメントリフトレバーを任意の刈高のスロットに設定します。

刈高の範囲は約 1~4 インチ (25.4~101.6 mm) です。刈高は、エンジンが作動していない状態で、地面からブレードの先端までを測ります。この高さはおよその値であり、土壌条件、芝の高さ、刈る芝の種類によって異なることがあります。

- ・ 平均的な芝生は、涼しい季節で約 2-1/2 インチ (63.5mm)、暑い月で約 3 インチ (76.2 mm) 以上の高さに刈り込んでください。健康的かつ見栄えの良い芝生を育てるためには、適度に成長した後に頻りに刈るようにします。
- ・ 最高の芝刈り性能を発揮させるには、高さが 6 インチ (152.4 mm) 以上の芝は 2 回刈る必要があります。最初は長めに刈り、2 回目に目的の高さにします。

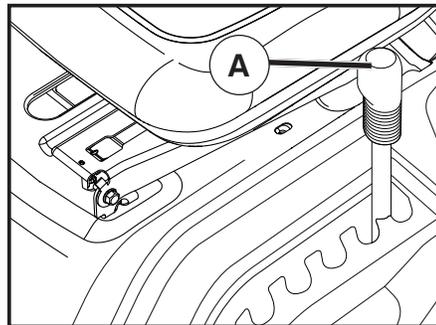


図8

ゲージホイールの調整(図9参照)

芝刈機が任意の刈高の作動位置にあるときに、ゲージホイールがわずかに地面から離れている位置に調整する必要があります。ゲージホイールがデッキを適切な位置に保つことで、地面を削ってしまうのをほとんどの地形条件で防止することができます。

注記:ゲージホイールの調整は、平坦な面にトラクターを置いた状態で行ってください。

- ・ 芝刈機を任意の刈高に調整します(この取扱説明書の「芝刈機の刈高調整」を参照してください)。
- ・ 芝刈機を任意の刈高位置にした状態で、ゲージホイールを地面から少し浮いた位置に設定する必要があります。ゲージホイールを適切な穴に取り付け、しっかり締め込みます。
- ・ 他も同様の手順で、同じ調整穴にゲージホイールを取り付けます。

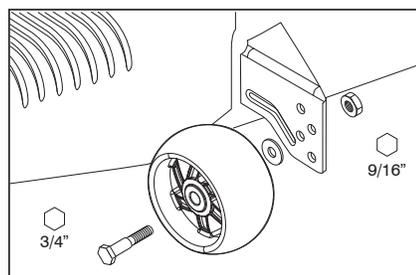


図9

斜面での操作



注意:15°を超える斜面は走行しないでください。また、斜面の横断は勾配に関係なく行わないでください。

- ・ 最低速度を選択してから、登坂または降坂を行います。
- ・ 斜面での停車や速度の変更はしないでください。
- ・ どうしても停止しなければならない場合は、ブレーキペダルを素早くブレーキ位置まで押し、駐車ブレーキをかけます。
- ・ 移動を再開するには、駐車ブレーキとブレーキペダルをゆっくりと放します。
- ・ 適切なドライブペダルをゆっくりと踏み込み、最低速度に設定します。
- ・ すべての方向転換はゆっくりと行います。

操作

芝刈機の操作

本トラクターには、作業着座検知スイッチが装備されています。エンジンをかけたまま、アタッチメントクラッチを作動させた状態で作業者がシートを離れようとする、エンジンが停止します。凹凸の多い土地、起伏の激しい場所、丘陵などで本機を運転するときは、エンジンが止まることのないようにシートの中央に深く座ってください。

- 任意の刈高を選択します（「芝刈機の刈高調整」を参照してください）。
- アタッチメントクラッチコントロールを作動させて、芝刈機のブレードを始動します。

芝刈ブレードの停止

アタッチメントクラッチコントロールを解除します。

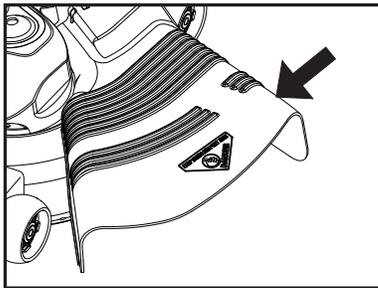
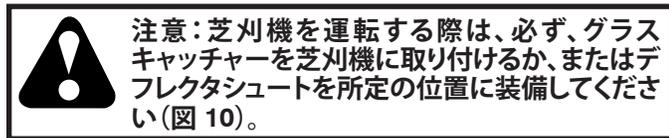


図 10

後退操作システム (ROS) (図 11)

トラクターには後退操作システム (ROS) が装備されています。スタータキーが ROS「オン」位置でない場合は、使用者がアタッチメントクラッチをつないで後退方向に運転しようとしても、エンジンが停止します。

警告：芝刈り中にアタッチメントクラッチをつないだまま後退しないでください。アタッチメントクラッチ作動中に後退操作するために ROS を「オン」にするのは、アタッチメントをつけたまま本機の方角を変える必要があると使用者が判断した場合のみにしてください。どうしても必要でない限り、後退での芝刈りはしないでください。

後退操作システムの使用

芝刈り範囲に子供や他の人が入らないことが確実な場合にのみ使用してください。

- ブレーキペダルを最後まで踏み込みます。
- エンジンをかけたまま、スタータキーを反時計方向に回して ROS「オン」の位置にします。
- 後退する前や後退中は下や後ろを確認してください。
- ゆっくりと後退ドライブペダルを踏み込み、移動を開始します。
- ROS がなくなったら、スタータキーを時計方向に回してエンジン「オン」の位置にします。

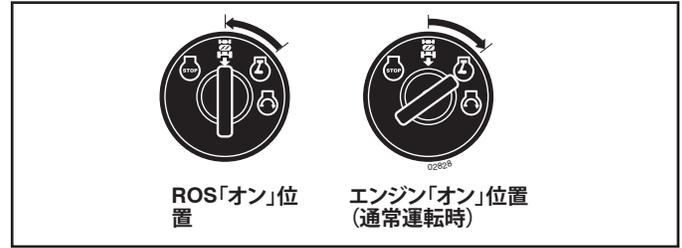


図 11

搬送 (図 12 参照)

トラクターを押したり牽引したりするときは、フリーホイールコントロールをフリーホイール位置にして、トランスミッションを解除します。フリーホイールコントロールは、座席の下にあります。

- アタッチメントリフトコントロールで、アタッチメントリフトを一番高い位置まで上げます。
- 座席を上げ、フリーホイールコントロールを引き上げてスロットの方へ動かしてから放すと、解除位置になります。
- 時速 3.2 km (2 mph) を超える速度でトラクターを押ししたり牽引したりしないでください。
- トランスミッションを再度作動させるには、上記の手順を逆に行います。

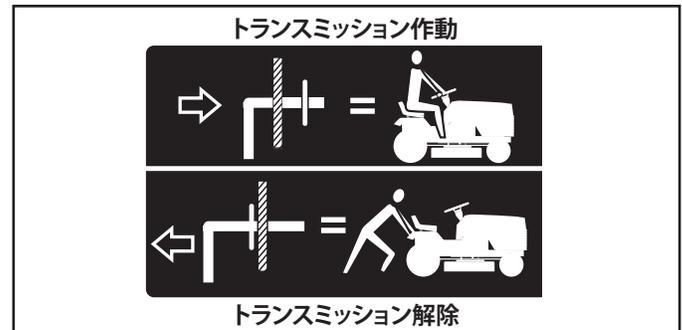


図 12

注記：トラクターをトラックまたはトレーラーで搬送する際にフードが破損しないように、フードを閉じてトラクターに固定してください。適切な方法でフードをトラクターにくくり付けてください（ロープ、コードなど）。

牽引カートおよびその他のアタッチメント

お使いのトラクターのメーカーが推奨し、その仕様に適合するアタッチメントのみを牽引してください。牽引する場合は常識に従ってください。斜面では、重すぎる負荷は危険です。タイヤがトラクションを失い、トラクターのコントロールが効かなくなるおそれがあります。

操作

エンジンを始動する前に

エンジンオイルの油面の点検

トラクターのエンジンは、サマーウエイトオイルが充填された状態で工場から出荷されます。

- トラクターを水平な地面に置いて、エンジンオイルを点検します。
- オイルフィルターキャップ／オイルレベルゲージを緩めて取り外し、オイルを拭き取ります。オイルレベルゲージをチューブに再度挿入し、オイルフィルターキャップをチューブの上に置きます。キャップはチューブにはめないでください。抜き取って、オイルレベルを確認します。必要に応じて、オイルレベルゲージの「FULL (フル)」マークに達するまでオイルを補充します。入れ過ぎないでください。
- 寒冷時の運転には、始動しやすいようにオイルを交換する必要があります。(この取扱説明書の「メンテナンス」セクションのオイル粘度チャートを参照してください。)
- エンジンオイルの交換については、この取扱説明書の「メンテナンス」セクションを参照してください。

ガソリンの追加

- 燃料タンクをフィルターネックの下部まで充填します。入れ過ぎないでください。オクタン価 87 以上の新しくきれいなレギュラーガソリンを使用します。ガソリンにオイルを混合しないでください。燃料の新鮮さを保つため、30 日以内に使用できる量の燃料を購入してください。



注意:こぼれたオイルや燃料は拭き取ってください。裸火の近くでガソリンを保存したり、こぼしたり、使用したりしないでください。

重要:気温が 32°F (0°C) 未満の場合は、新しくきれいな冬用ガソリンを使用して、寒冷時の始動性を確保してください。

注意:アルコール混合燃料 (ガソールと呼ばれる。エタノールまたはメタノールを使用) は親水性のため、保存中に分離したり酸を生じたりする可能性があります。酸性ガスは、保管中にエンジンの燃料システムに損傷を与える可能性があります。エンジンに問題が生じないよう、30 日以上保管する前に、燃料システムを空にしてください。ガスタンクから燃料を抜き取り、エンジンを始動して、燃料ラインとキャブレターが空になるまで作動させます。次のシーズンには新しい燃料を使用してください。追加情報については、保管の手順を参照してください。燃料タンクには、エンジンやキャブレターのクリーナー製品を決して使用しないでください。使用すると永久的な損傷が生じる可能性があります。燃料劣化防止剤で、保管中の燃料にガム質が堆積するのを抑制することもできます。燃料タンクまたは保管容器のガソリンに劣化防止剤を加えてください。劣化防止剤の容器に記載されている混合比を必ず守ってください。劣化防止剤を追加した後、少なくとも 10 分エンジンをかけて劣化防止剤がキャブレターに届くようにしてください。燃料劣化防止剤を使用する場合は、ガスタンクとキャブレターを空にしないでください。

エンジンの始動 (図 3 参照)

エンジンを最初に始動する際、またはエンジンの燃料が空になった場合は、燃料をタンクからエンジンに移すためのクランク時間が余分にかかります。

- フリーホイールコントロールがトランスミッション作動位置にあることを確認します。
- 操作位置で座席に座り、ブレーキペダルを踏み込み、駐車ブレーキをかけます。
- アタッチメントクラッチを「DISENGAGED (解除)」の位置にします。
- スロットルコントロールを高速位置に入れます。
- 冷機エンジンを始動させる際は、チョークコントロールを引き出します。エンジンが温まっている場合、通常、チョークコントロールは不要です。

注記:始動する前に、以下の温間時始動および冷間時始動の手順を読んでください。

- スタータキーを差し込み、「START (始動)」の位置まで時計方向に回し、エンジンが始動したらすぐにキーを放します。1 分あたり 15 秒以上続けてスタータを作動させないでください。数回試みてもエンジンが始動しない場合は、チョークコントロールを押し込み、数分待ってから再度試してみてください。それでもエンジンが始動しない場合は、チョークコントロールを引き出して再試行してください。

温間時始動 (50°F/10°C 以上)

- エンジンが始動したら、エンジンがスムーズに回転し始めるまでチョークコントロールをゆっくりと押し込みます。エンジンが急激に回転し始めた場合は、チョークコントロールを数秒間少し引き出してから、ゆっくりと押し入れます。
- これで、アタッチメントとグラウンドドライブが使用できるようになります。エンジンが負荷に対応できない場合は、エンジンを再始動し、上記のようにチョークを使用して 1 分間暖機運転してください。

冷間時始動 (50°F/10°C 以下)

- エンジンが始動したら、エンジンがスムーズに回転し始めるまでチョークコントロールをゆっくりと押し込みます。エンジンが速度と負荷のわずかな変化に対応できるように、チョークコントロールを少しずつ完全に入るまで押し続けます。エンジンが急激に回転し始めた場合は、チョークコントロールを数秒間少し引き出してから、ゆっくりと押し入れます。温度によって、数秒から数分の暖機時間が必要になる場合があります。

オートマチックトランスミッションの暖機

- 寒冷時は、ユニットを運転する前に、トランスミッションを次の手順で暖機する必要があります。
 - トラクターが水平な地面にあることを確認します。
 - 駐車ブレーキを解除し、ブレーキをゆっくりと作動位置に戻します。
 - トランスミッションが暖まるまで 1 分待ちます。これは、エンジンの暖機と同時に行うことができます。
- トランスミッションを暖機した後、エンジン暖機中にアタッチメントを使用できます。このとき、チョークコントロールを少し引き出すことが必要な場合があります。

操作

トランスミッションのパーズ



注意: エンジン作動中は、フリーホイールレバーの駆動を切り替えしないでください。

適切な作動と性能を得るために、トラクターを最初に操作する前にトランスミッションをパーズすることをお勧めします。この手順により、トラクターの輸送中に発生した可能性のあるトランスミッション内にたまった空気を取り除きます。

重要: サービスや交換のためにトランスミッションを取り外した場合は、再設置した後、トラクターを操作する前にパーズを行う必要があります。

1. エンジンを停止させ、駐車ブレーキをかけた状態で、トラクターを開けた場所に安全に駐車します。
2. フリーホイールコントロールを「解除」位置にし、トランスミッションを解除します。(本取扱説明書のこのセクションの「搬送」を参照してください。)
3. トラクターのシートに座って、エンジンを始動します。エンジンがかかったら、スロットルコントロールを低速の位置にします。駐車ブレーキを解除します。



注意: 手順 4 の間は、いつでもドライブホイールが動く可能性があります。

4. 駆動ペダルを前進一杯に踏み込み 5 秒間保ってからペダルを放します。• 駆動ペダルを後退一杯に踏み込み 5 秒間保ってからペダルを放します。この手順を 3 回繰り返します。
5. エンジンを停止し、駐車ブレーキをかけます。
6. フリーホイールコントロールを作動位置に入れ、トランスミッションをつなぎます。(本取扱説明書のこのセクションの「搬送」を参照してください。)
7. トラクターのシートに座って、エンジンを始動します。エンジンがかかったら、スロットルコントロールを 1/2 の速度の位置に動かします。駐車ブレーキを解除します。
8. トラクターを約 1.5 m (5 フィート) 前進させた後、約 1.5 m (5 フィート) 後退させます。この運転操作を 3 回繰り返します。

これでトランスミッションがパーズされ、正常に動作する準備が整いました。

サービスマインダ／時間計

サービスマインダにはエンジンの総作動時間が表示され、エンジンや芝刈機の保守点検時期をお知らせします。作業 50 時間ごとにオイル缶アイコンが 2 時間または手動でリセットされるまで表示されます。表示を手動でリセットするには、イグニッションスイッチをオンの位置に回したあとオフの位置に回すのを 5 回繰り返します(オンに 1 秒、オフに 1 秒)。エンジンおよび芝刈機の保守点検については、この使用説明書の「メンテナンス」の項を参照してください。

注記: サービスマインダは、スタータスイッチが「STOP」以外の位置にあるときに進みます。測定値が正確になるように、エンジンが作動していないときは必ずキーを「STOP」の位置にしてください。

芝刈りのヒント

- 芝刈機のハウジングがトラクターに取り付けられている場合は、タイヤチェーンを使用しないでください。
- 最適な芝刈り性能を得るために、芝刈機は適切に水平になっている必要があります。この取扱説明書の「サービスと調整」セクションの「芝刈機の水平調整」を参照してください。
- 芝刈りには芝刈機の左側を使用します。
- 刈り取った芝が、芝刈り済みの範囲に排出されるように移動してください。芝を刈った場所を右側にしてトラクターを走行します。これにより、刈り取られた芝が積み上がることがなく、均一に芝を刈ることができます。
- 広い範囲の芝を刈る際は、刈り取った芝が木やフェンスや車道などに排出されないよう、まず右回転で運転します。1 ~ 2 周したら逆回転して、そこから最後まで左回転で芝を刈ります(図 13)。

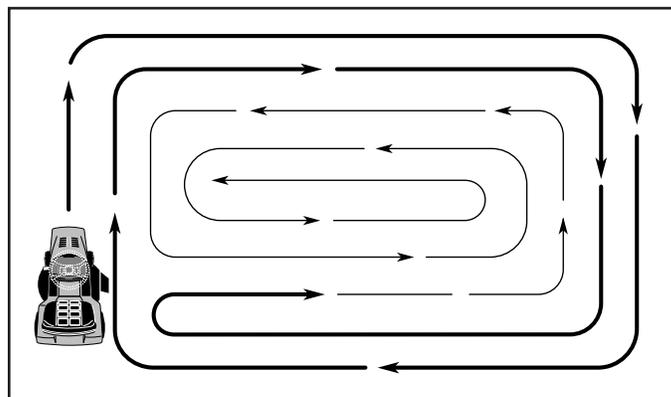


図 13

- 芝の高さが非常に高い場合は、刈り込みを 2 回に分けて負荷を軽減し、乾燥した芝による火災の危険を減らす必要があります。最初の刈り込みを比較的高い位置にし、2 回目の刈り込みで目的の高さにします。
- 濡れている芝は刈らないでください。濡れた草は芝刈機を塞ぎ、塊ができてしまう原因になります。芝が乾燥してから刈ってください。
- 芝刈りの際は、常にエンジンをフルスロットルで運転して芝刈り性能を向上させ、刈り取った芝が適切に排出されるようにしてください。芝刈機の刈り込み性能と必要な刈取り品質を得るために、なるべく低速のギアを選択し、走行速度を調整します。
- アタッチメントを使用する場合は、性能を最大限に引き出すため、地形に合わせて運転速度を選択してください。

メンテナンス

メンテナンススケジュール		使用前毎回	8 時間ごと	25 時間ごと	50 時間ごと	100 時間ごと	シーズンごと	保管前
トラクター	ブレーキ操作の点検	✓	✓					
	タイヤの空気圧点検	✓	✓					
	オペレーター着座および ROS システムの点検	✓						
	ファスナーの緩みの点検	✓				✓		✓
	芝刈機ブレードの点検/交換			✓ ₃				
	潤滑図			✓				✓
	バッテリーレベルの点検			✓ ₄				
	バッテリーと端子の清掃			✓				✓
	ステアリングプレートの異物の除去			✓ ₅				
	トランスアクスルの冷却の点検			✓				
	芝刈機の水平性の点検					✓		
	Vベルトの点検						✓	
エンジン	エンジンオイルの油面の点検	✓	✓					
	エンジンオイルの交換(オイルフィルター付きモデル)				✓ _{1,2}			✓
	エンジンオイルの交換(オイルフィルターのないモデル)			✓ _{1,2}				✓
	エアフィルターの清掃			✓ ₂				
	風よけの清掃			✓ ₂				
	マフラー/スパーク除去の点検				✓ ₆			
	オイルフィルターの交換(オイルフィルター付きモデル)					✓ _{1,2}		
	エンジン冷却フィンの清掃					✓ ₂		
	スパークプラグの交換					✓	✓	
	エアフィルターの紙カートリッジの交換					✓ ₂		
	燃料フィルターの交換						✓	

1 - 高負荷の作業または高温の場所で使用する場合は、これより頻繁に交換してください。
 2 - 汚れや粉塵の多い場所で使用する場合は、これより頻繁に整備してください。
 3 - 砂が多い土壌の芝を刈る場合は、これより頻繁にブレードを交換してください。

4 - メンテナンスフリーバッテリーの場合は不要です。
 5 - メンテナンスセクションの清掃に関する記述を参照してください。

6 - マフラーは運転 50 時間ごとまたは 6 ヶ月ごとに、損傷の兆候がないか点検してください。損傷が見つかった場合は、修理部品リストを参照するか、最寄りの販売店に交換品を注文してください。

一般的な推奨事項

本トラクターの保証は、作業者の誤用または過失に該当したものではありません。本保証は、作業者がこの取扱説明書の指示に従ってトラクターをメンテナンスした場合に、完全に適用されます。

トラクターを適切にメンテナンスするには、定期的に調整する必要があります。

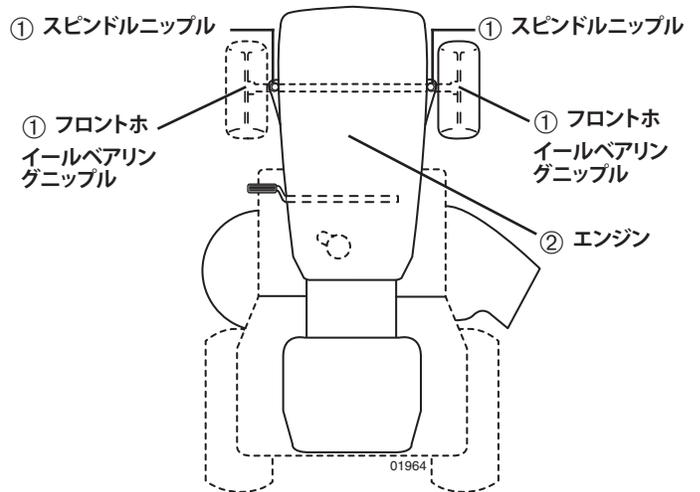
少なくとも 1 シーズンに 1 回は、この取扱説明書の「サービスと調整」セクションに記載されている調整を行う必要があるかどうかを確認してください。

- 少なくとも年 1 回はスパークプラグの交換、エアフィルターの清掃または交換、ブレードとベルトの摩耗の点検を行う必要があります。新しいスパークプラグと清潔なエアフィルターにより、適切な空気と燃料の混合が確保され、エンジンの性能と寿命が向上します。

使用前毎回

- エンジンオイルレベルの点検。
- ブレーキ動作の点検。
- タイヤの空気圧点検。
- オペレーター着座検知システムと ROS システムの正常動作の確認。
- ファスナーのゆるみの点検。

潤滑油チャート



- 汎用グリース
- 「エンジン」セクションを参照してください。

重要: 特殊なナイロンベアリングが使用されている回転箇所には、オイルやグリースを塗布しないでください。粘性のある潤滑油は、ほこりや汚れを引き付けるため、自己潤滑ベアリングの寿命が短くなります。潤滑する必要があると思われる場合は、乾いた粉末グラファイトタイプの潤滑剤のみを慎重に使用してください。

メンテナンス

トラクター

メンテナンスを実施する際は、常に安全注意事項に従ってください。

ブレーキの作動

平坦で乾燥したコンクリートまたは舗装面で、最高速ギヤの最高速度でトラクターが停止するまでに 5 フィート (1.5 m) 以上必要な場合は、ブレーキを点検して調整する必要があります (この取扱説明書の「サービスと調整」セクションの「ブレーキの点検」を参照してください)。

タイヤ

- すべてのタイヤの空気圧を適切に維持します。(適切な PSI については、タイヤの側面を確認してください)。
- タイヤにガソリン、オイル、虫よけなどの化学物質が付着しないようにしてください。ゴムに害を及ぼすおそれがあります。
- 切り株、石、深いわだち、鋭利な物体など、タイヤの損傷を引き起こす危険を避けてください。

注記: タイヤのパンクや徐々に空気が漏れることを防ぐには、最寄りの部品販売店からタイヤシーラントを購入してください。タイヤシーラントは、タイヤの乾燥腐敗や腐食も防止します。

オペレータ着座検知システムおよび後退操作システム (ROS) (図 14 参照)

オペレータ着座検知システムと後退操作システムが適切に作動することを確認ください。トラクターが説明書に記載されているように機能しない場合は、すぐに不具合を修理してください。

- ブレーキペダルを一杯まで踏み込み、アタッチメントクラッチコントロールが解除の位置にない限り、エンジンを始動しないでください。

オペレータ着座検知システムの点検

- エンジンがかかっているときに作業者が駐車ブレーキをかけないで座席を離れようとする、エンジンが停止します。
- エンジンがかかっており、アタッチメントクラッチがつながっているときに作業者が座席を離れようとする、エンジンが停止します。
- 作業者が座席に着いていないときは、決してアタッチメントクラッチを操作しないでください。

後退操作システム (ROS) の点検

- イグニッションスイッチがエンジン「オン」の位置の場合は、アタッチメントクラッチがつながっている状態でエンジンがかかっているときに作業者が後退にシフトしようとする、エンジンが停止します。
- イグニッションスイッチが ROS 「オン」の位置の場合は、アタッチメントクラッチがつながっている状態でエンジンがかかっているときに作業者が後退にシフトしたときに、エンジンが停止しません。



図 14

ブレードの手入れ

最良の結果を得るためには、芝刈ブレードを鋭利に保つ必要があります。曲がったり破損したブレードは交換してください。



注意: 交換用ブレードは、トラクターのメーカーに認定されたもののみを使用してください。トラクターのメーカーに認定されていないブレードを使用すると、トラクターが損傷するおそれがあり、保証が無効になる場合があります。

ブレードの取り外し (図 15 参照)

- ブレードに対して作業する場合は、芝刈機をできるだけ高い位置まで上げます。

注記: 手に手袋をはめ、ブレードを厚布で覆ってください。

- ブレードボルトを反時計回りに回して、取り外します。
- 新しいブレードまたは目立てしたブレードを、「GRASS SIDE」の刻印がある側を地面に向けて取り付けます。

重要: 適切に組み付けるには、ブレードの中心穴がマンドレルアセンブリの星形に合っている必要があります。

- ブレードボルトを取り付け、しっかりと締めます (45~35 ft.Lbs./62~75 Nm)。

重要: 特殊ブレードボルトは、熱処理済です。

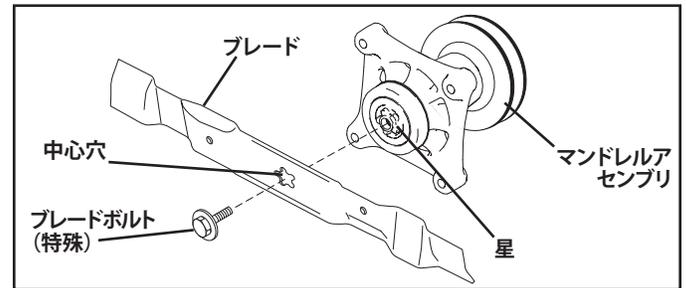


図 15

バッテリー

お使いのトラクターには、通常の使用に十分なバッテリー充電システムが装備されています。ただし、自動車用充電器を使用してバッテリーを定期的に充電すると、バッテリーの寿命が延びます。

- バッテリーと端子は清潔に保ってください。
- バッテリーボルトをしっかりと締めます。
- 小さな通気孔を開けておきます。
- 6~10 アンペアで 1 時間充電します。

注記: トラクターの元の装置バッテリーはメンテナンスフリーです。キャップやカバーを開けたり外したりしないでください。電解液のレベルを追加または点検する必要はありません。

バッテリーと端子の清掃

バッテリーと端子に腐食や汚れがあると、バッテリーの電流が「漏れる」ことがあります。

- 端子ガードを取り外します。
- 最初に黒のバッテリーケーブルを外し、次に赤のバッテリーケーブルを外して、トラクターからバッテリーを取り外します。
- 普通の水でバッテリーをすすぎ、乾燥させます。
- 端子とバッテリーケーブルの端を、明るい色になるまでワイヤーブラシで清掃します。
- 端子にグリースまたはワセリンを塗布します。
- バッテリーを取り付け直します。(この取扱説明書の「サービスと調整」セクションの「バッテリーの交換」を参照してください。)

メンテナンス

V ベルト

100 時間運転した後に V ベルトが劣化および摩耗していないか点検し、必要に応じて交換します。ベルトは調節できません。ベルトが摩耗して滑り始めた場合は交換してください。

トランスアクスルのメンテナンス

適切に冷却されるように、トランスミッションファンと冷却ファンは清潔に保つ必要があります。

エンジン回転中やトランスミッションが熱いうちに、ファンやトランスミッションの清掃をしないでください。シールの損傷を防ぐため、トランスミッションの清掃には高圧水や蒸気を使用しないでください。

- 冷却ファンを点検し、ファンブレードに傷がなく清潔であることを確認します。
- 冷却フィンに泥や刈り取った芝などがついていないか点検します。シールの損傷を防ぐため、冷却ファンの清掃には圧縮空気や高圧スプレーを使用しないでください。

トランスアクスルポンプ作動液

トランスアクスルは工場で密閉されており、使用中に注油メンテナンスは不要です。トランスアクスルから漏れがあるなどでサービスが必要な場合は、お近くの認定サービスセンターにお問い合わせください。

エンジン

潤滑剤

API サービス分類 SJ-SN に準拠した高品質のオイルのみを使用してください。予想される運転温度に応じてオイルの SAE 粘度等級を選択してください。

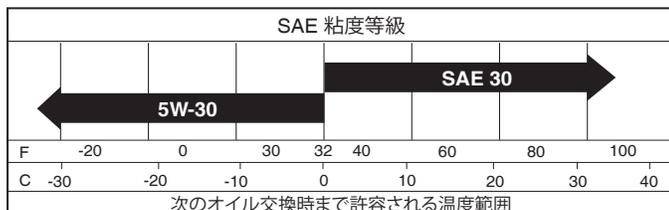


図 16

注記:マルチ粘度オイル (5W30、10W30 など) は、寒冷時の始動性が向上しますが、32°F/0°C 以上で使用するとオイル消費量が増加します。エンジンオイルレベルの点検頻度を上げ、オイル不足の状態での運転してエンジンが損傷することがないようにしてください。

トラクターを 1 年に 50 時間使用しない場合は、50 時間運転するごとまたは少なくとも年に 1 回オイルを交換してください。

エンジンを始動する前、および 8 時間ごとにクランクケースの油面を点検してください。油面をチェックするたびにオイルフィルターキャップまたはオイルレベルゲージをしっかりと締めてください。

エンジンオイルの交換 (図 16~18 参照)

オイルを交換する前に、予想される温度の範囲を確認します。オイルはすべて、API サービス分類 SJ-SN を満たしている必要があります。

- トラクターが水平面に置かれていることを確認してください。
- 温かいほうがオイルの排出が容易になります。
- 適切な容器にオイルを回収します。

下部ダッシュカバーの取り外し

- フードを持ち上げます。
- 下部ダッシュカバーから留め具を取り外します。

注意:下部のダッシュカバーを慎重に取り外して、カバーのタブが破損していないことを確認します。

- 下部ダッシュカバーを上をスライドさせて、下部ダッシュのテーパースロットからカバータブを取り外します。

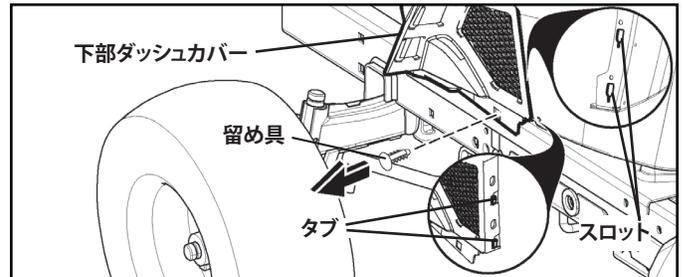


図 17

- オイルフィルターキャップまたはオイルレベルゲージを取り外します。オイルを交換するときは、エンジンが汚れないように注意してください。
- ドレンチューブをバルブに取り付けます。
- 10 mm レンチで、ドレンバルブを反時計回りに回して開きます。

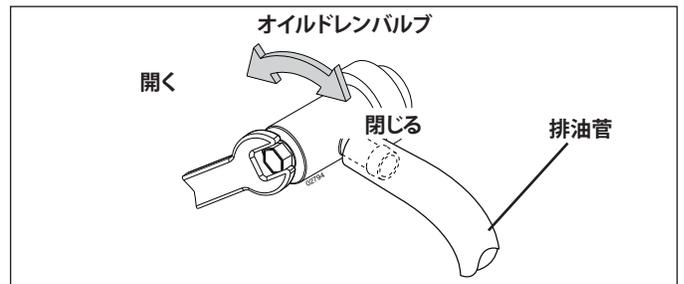


図 18

- オイルが完全に排出されたら、ドレンバルブを時計回りに回して閉じます。10 mm レンチを使用して、少量のトルクをかけて閉じたままにします。締めすぎないでください。
- ドレンチューブを取り外し、安全な場所に保管します。
- オイルレベルゲージチューブを使って、エンジンにオイルを充填します。ゆっくりと注入します。入れ過ぎないでください。おおよその容量については、この取扱説明書の「製品仕様」セクションを参照してください。
- オイルフィルターキャップまたはオイルレベルゲージで、油面を点検します。オイルレベルゲージをチューブに挿入し、オイルフィルターキャップをチューブの上に置きます。読み取り中はキャップをチューブにはめないでください。オイルレベルゲージの「FULL」ラインまでオイルを入れます。完了したらキャップをチューブにしっかりと締め込みます。

エンジンオイルフィルター

エンジンオイルフィルターは、シーズンごとか、トラクターを 1 年に 100 時間以上使用した場合はオイル交換 1 回おきに交換してください。

注記:必要に応じて、この取扱説明書の「下部ダッシュカバーの取り外し」セクションの手順に従って下部ダッシュカバーを取り外します。

メンテナンス

エアフィルター

汚れたエアフィルターを使用するとエンジンは正常に作動しません。ほこりの多い環境では、エアクリーナーの保守頻度を上げてください。

風よけの清掃

風よけは、エンジン上部の空気取り込み口ブロワーの上にあります。エンジンのオーバーヒートによる損傷を防ぐため、風よけに汚れや擦れ傷がないようにしてください。ワイヤーブラシまたは圧縮空気で清掃し、汚れや頑固な乾燥したゴム状繊維を取り除きます。

エンジン冷却システム

適切に冷却するために、ガラススクリーン、冷却フィン、その他のエンジン外表面が常に清潔に保たれていることを確認してください。

100 時間運転することにより(ほこりが非常に多い、汚れている状態ではより頻繁に)ブロワーハウジングとその他の冷却シュラウドを取り外します。必要に応じて、冷却フィンと外表面を清掃します。冷却シュラウドを再度取り付けます。

注記: ガラススクリーンの詰まり、冷却フィンの汚れまたは詰まりがある状態、または冷却シュラウドが取り外された状態でエンジンを運転すると、オーバーヒートによりエンジンが損傷します。

マフラー

火災の危険や破損の原因になることがあるため、マフラーやスパークアレスタ(装着されている場合)を点検して、腐食していたら交換します。

スパークプラグ

スパークプラグは、芝刈りの各シーズンの開始時またはは 100 時間の運転ごとのいずれか早い方のタイミングで交換してください。スパークプラグの種類とギャップの設定については、この取扱説明書の「製品仕様」セクションに記載されています。

インライン燃料フィルター(図 19 参照)

燃料フィルターは、各シーズンに 1 回交換する必要があります。燃料フィルターが詰まってキャブレターへの燃料の流れが妨げられる場合は、交換が必要です。

- エンジンを冷却した状態で、フィルターおよびプラグ燃料ラインセクションを取り外します。
- 新しい燃料フィルターを燃料ラインの所定の位置に配置し、矢印をキャブレターの方に向けます。
- 燃料ラインに漏れがなく、クランプが正しい位置にあることを確認します。
- こぼれたガソリンはすぐに拭き取ります。

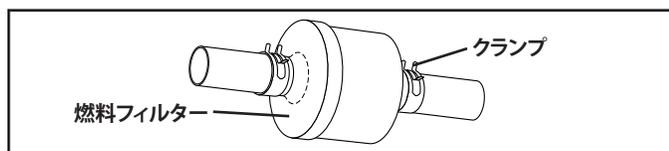


図 19

清掃

- エンジン、バッテリー、シート、仕上げ面などを清掃し、異物をすべて取り除きます。
- ステアリングプレートから異物を取り除いてください。異物によってクラッチ/ブレーキペダルの動きが制限され、ベルトのスリップや駆動のロスが生じるおそれがあります。図 20 を参照してください。

注意: すべてのピンチポイントや可動部を避けてください。

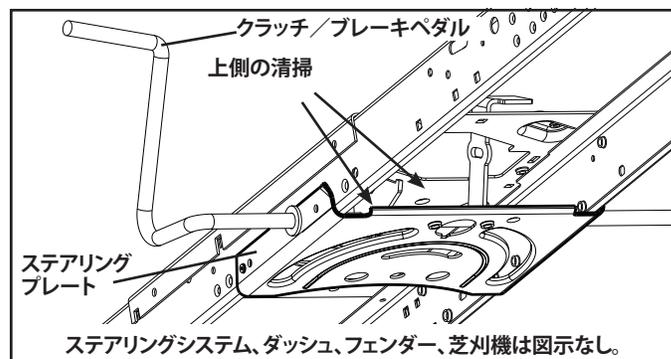


図 20

- 仕上げ面とホイールにガソリンやオイルなどを付着させないようにします。
- 自動車用ワックスで塗装面を保護します。

洗浄口(装備されている場合)を除いて、エンジンとトランスミッションに水が入らないようにカバーしない限り、庭用ホースや高圧洗浄機でトラクターの外面を清掃することは推奨しません。エンジンやトランスミッションに水が入ると、トラクターの耐用年数が短くなります。トラクターの外面や芝刈機から草、葉、屑を取り除くには、圧縮空気やリーフブローをご使用ください。

メンテナンス

デッキ洗浄口(図 21 参照)

トラクターのデッキには、デッキ洗浄システムとして、表面に洗浄口が装備されています。ご使用後はいつもこの洗浄口を利用ください。

- トラクターを、水栓から庭用ホースで届く位置の、平らで開けた芝生の場所に移動します。

重要:トラクターの排出口が、家、車庫、駐車された車などに向いていないことを確認してください。(もし付けてある場合は)バグガーシュートやマルチカバーを外します。

- アタッチメントクラッチコントロールが「DISENGAGED (解除)」の位置にあり、駐車ブレーキがかかっており、エンジンが停止していることを確認します。
- ガーデンホースに標準の 12 mm メスホースコネクタ (タップ接続の反対側) が取り付けられていることを確認します。
- ホースコネクタのロックカラーを引き戻し、コネクタを芝刈機デッキの左端にあるデッキ洗浄口に入れます。ロックカラーを放して、コネクタをノズルにロックします。

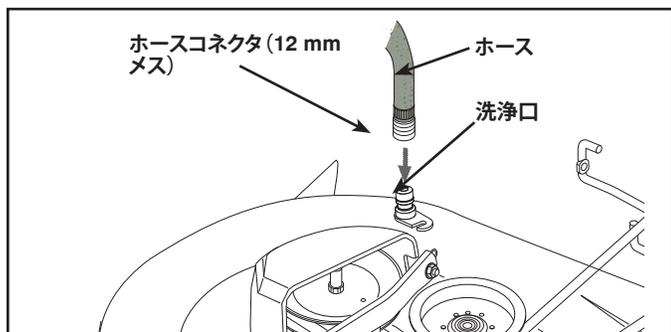


図 21

重要:ホースを引き、しっかり接続されていることを確認してください。

- 水栓を開きます。
- トラクターの操縦席に座り、エンジンを再始動してスロットルレバーを高速「」の位置に入れます。

重要:再度周囲を見回し、作業範囲の安全を確認してください。

- トラクターのアタッチメントクラッチコントロールを「ENGAGED (作動)」位置に動かします。デッキの洗浄が終了するまで、カッティングデッキをつないだまま操縦席で待機します。
- トラクターのアタッチメントクラッチコントロールを「DISENGAGED (解除)」位置に動かします。スタータキーを STOP 位置に回して、トラクターのエンジンを停止します。水栓を閉じます。
- ホースコネクタのロックカラーを引き戻して、コネクタをノズル洗浄口から外します。
- トラクターを乾いた場所(できればコンクリートや舗装された地面)に移動させます。アタッチメントクラッチコントロールを「ENGAGED (作動)」位置にして、余分な水を飛ばし、トラクターを移動させる前に乾燥させます。



警告:洗浄口のふたが破損している、またはふたがない場合は、ブレードに接触した物体が飛んで人が怪我をするおそれがあります。

- 再び芝刈機を使用する前に、破損、紛失した洗浄口のふたを速やかに新しいものに取り替えてください。
- 芝刈機の穴はすべてボルトやロックナットで塞がれます。

サービスと調整



警告：重傷事故を防ぐため、サービスまたは調整を行う前に、次の作業を行ってください。

- ブレーキペダルをいっばいに踏み込み、駐車ブレーキをかけます。
- アタッチメントクラッチを「DISENGAGED (解除)」の位置にします。
- スタータキーを「STOP」の位置に回し、キーを抜きます。
- ブレードとすべての可動部品が完全に停止していることを確認します。
- スパークプラグからスパークプラグワイヤーを外し、プラグと接触しない位置にワイヤーを置きます。

芝刈機の取り外し(図 22 参照)

- アタッチメントクラッチを「DISENGAGED (解除)」の位置にします。
- アタッチメントリフトレバーを一番下の位置まで下げます。
- 芝刈機のベルトをクラッチプーリーから取り外します。
- 芝刈機からフロントリンク(E)を外し、リテーナースプリングとワッシャーを取り外します。
- 芝刈機の側面に移動し、芝刈機のサスペンションアーム(A)をシャーシから、リアリフトリンク(C)をリア芝刈機ブラケット(D)から外し、リテーナースプリングとワッシャーを取り外します。
- 芝刈機の反対側に移動して、サスペンションアームとリヤリフトリンクを外します。



注意：リヤリフトリンクの接続を外すと、アタッチメントリフトレバーにはねがかけられます。レバーの位置を変えるときは、リフトレバーをしっかりと握ってください。

- トラクターの右下側から芝刈機をスライドさせて外します。

芝刈機の設置(図 22~27 参照)

トラクターが平らな面に置かれていることを確認し、駐車ブレーキをかけます。

- アタッチメントリフトレバーを一番下の位置まで下げます。



注意：リフトレバーは、ばね押し上げ式です。リフトレバーをしっかりと握ってゆっくり下げ、一番低い位置に合わせます。

注記：芝刈機をトラクターの下に入れる前に、芝刈機のサイドサスペンションアーム(A)が前を向いていることを確認してください。

- 芝刈機をトラクターユニットの中央までスライドさせます。

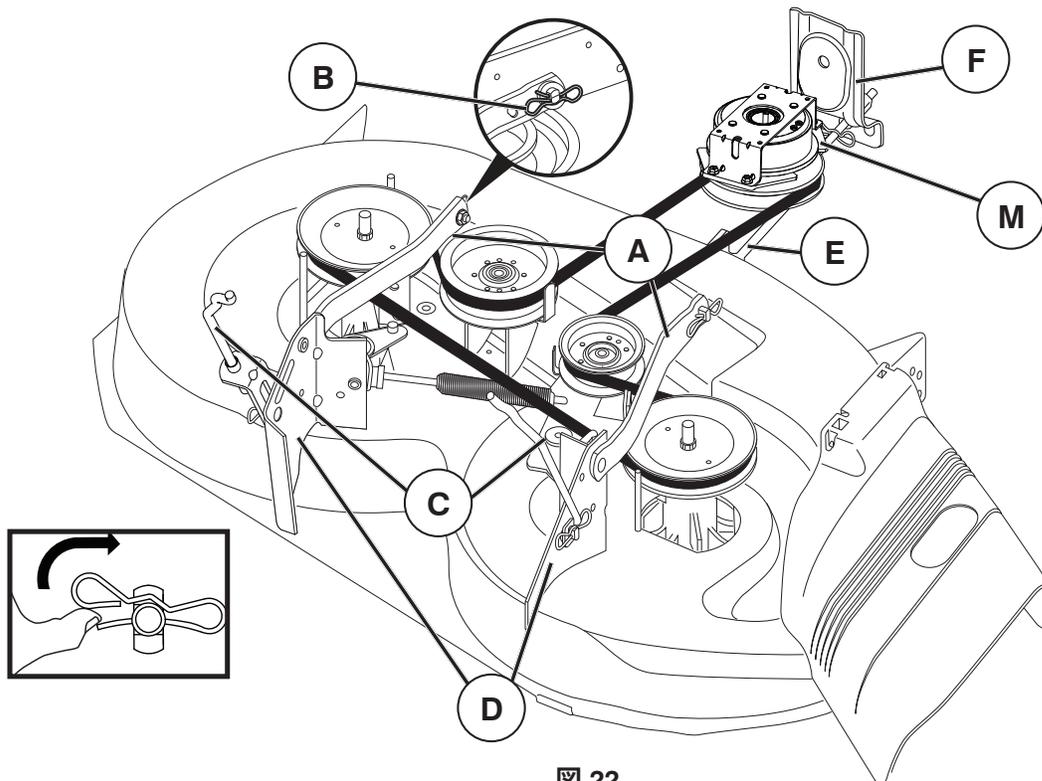


図 22

サービスと調整

- 芝刈機のサイドサスペンションアーム(A)のシャーシ取り付け - アームの穴をトラクターのシャーシ外側のピン(B)に合わせ、リテーナースプリングで固定します。
- トラクターの反対側も同じ手順で作業します。

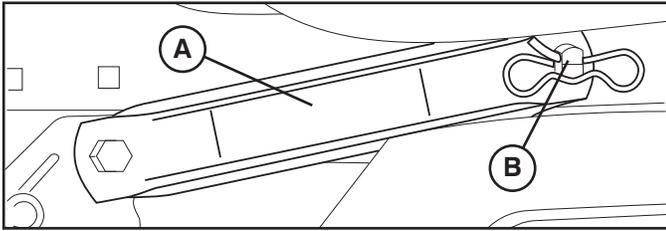


図 23

- リアリフトリンク(C)の取り付け - 芝刈機後方の隅を持ち上げ、リンクアセンブリのスロットを芝刈機ブラケット(D)後方のピンに合わせて、ワッシャーとリテーナースプリングで固定します。

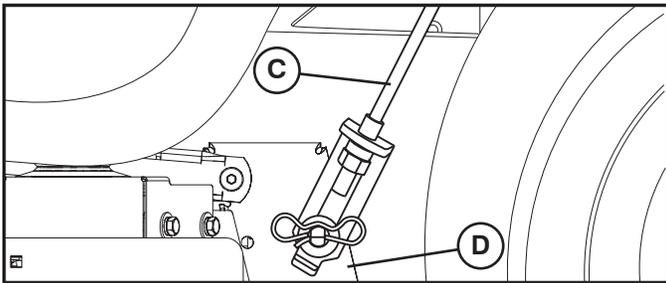


図 24

- フロントリンク(E)の取り付け - トラクターの左側から作業します。リンクアセンブリのロッドの先端を、トラクタのフロントサスペンションブラケット(F)の正面の穴に差し込みます。
- リンク(E)の端を芝刈機ブラケット(H)前方の穴に差し込み、ワッシャーとリテーナースプリング(J)で固定します。

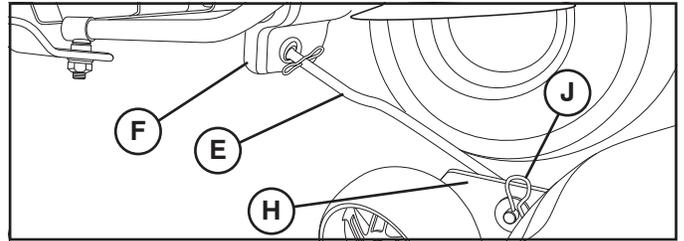


図 25

- 電気クラッチプーリー(M)にベルトを取り付けます。

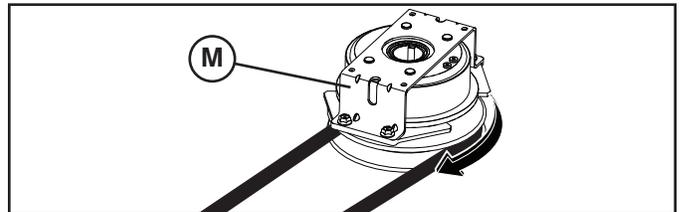


図 26

重要:ベルトがすべての芝刈機プーリー溝を通して適切に経路設定されていることを確認します。

- アタッチメントリフトレバーを一番高い位置に上げます。
- 芝刈機を操作する前に、必要に応じて、この取扱説明書の「操作」セクションを参照してゲージホイールを調整してください。

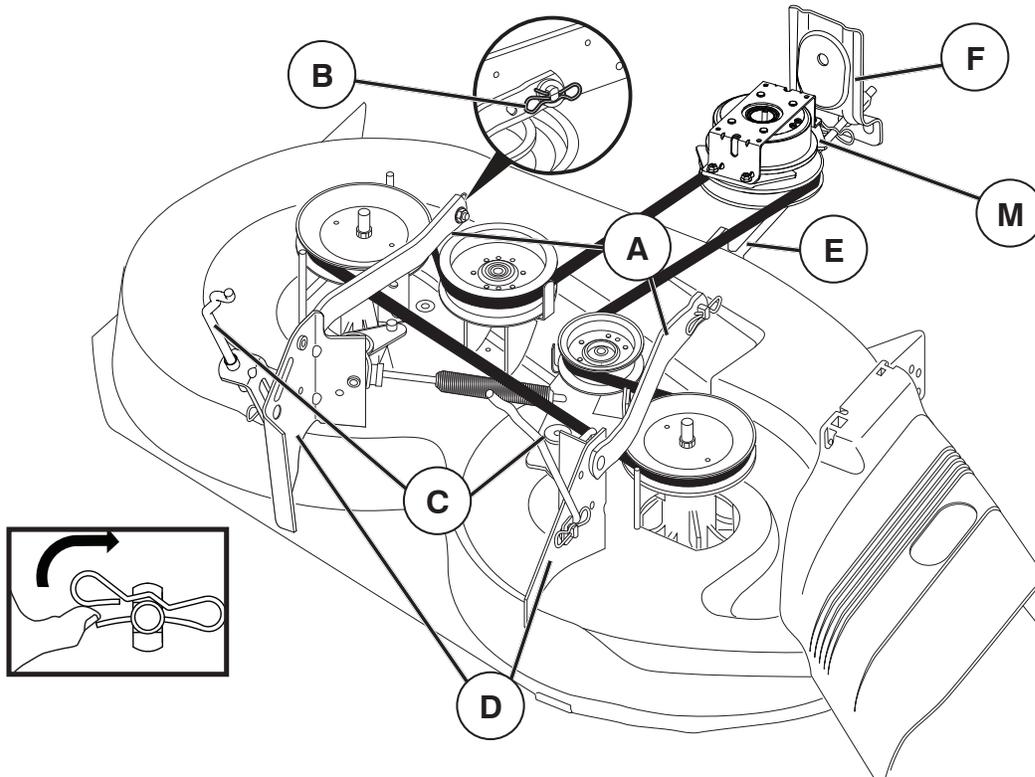


図 27

サービスと調整

芝刈機の水平調整

タイヤはタイヤ表面に表示の PSI 空気圧を適切に保つ必要があります。タイヤの空気圧が低すぎたり高すぎたりすると、芝刈りの見栄えに影響し、芝刈機が正しく調整されていないように見えることになります。

目視による左右の調整 (図 28 参照)

- すべてのタイヤの空気圧が適切であるにも関わらず、芝が均一に刈り取られていない場合は、芝刈機のどちら側が低く刈られているかを確認します。
- 3/4 インチまたは調整レンチでリフトリンク調整ナット (A) を左に回して芝刈機の左側を下げるか、右側に回して芝刈機の左側を上げます。

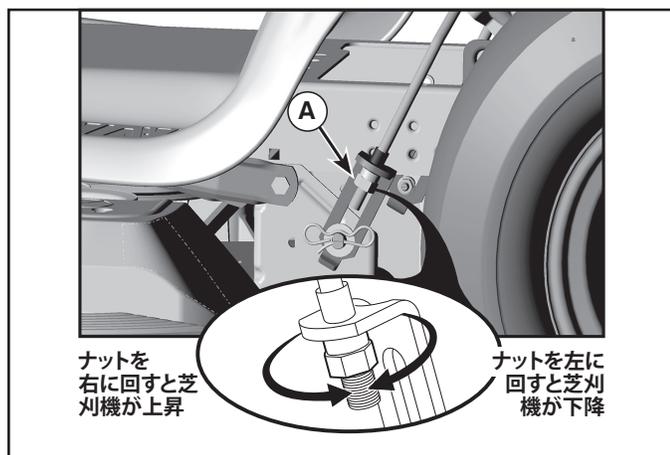


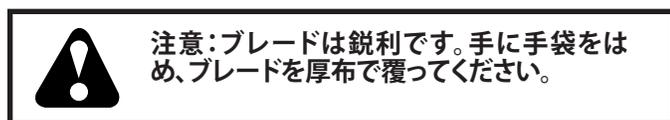
図 28

注記: 調整ナットを一回転させるごとに芝刈機の高さは約 3/16 インチ (4.7 mm) 変わります。

- 刈り取り前の草を少し刈ってみて、見栄えを点検します。刈り取り結果が適切になるまで、必要に応じて再調整します。

正確な左右調整 (図 29 参照)

- すべてのタイヤの空気圧を適切にし、トラクターを水平な地面や道路に駐車します。



- 芝刈機を一番高い位置に上げます。
- 芝刈機の両側にブレードを取り付け、ブレードのエッジ底から地面までの距離 (A) を測ります。両側の距離は同じでなければなりません。
- 調整が必要な場合は、上記の「目視調整」のステップを参照してください。
- 再測定し、両側の距離が同じになるように適宜調整します。

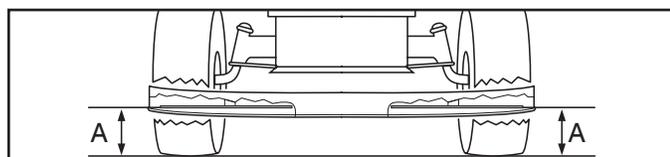
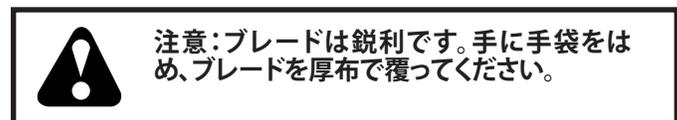


図 29

前後の調整 (図 30 および 31 参照)

重要: デッキは左右水平でなければなりません。

最良の刈り取り結果を得るためには、刈取機が一番高い位置にある時、前端が後端より 1/8 インチ～1/2 インチ (3.1～12.7 mm) 低くなるように芝刈ブレードを調整する必要があります。



- 芝刈機を一番高い位置に上げます。
- ブレードの先端がまっすぐ前に向く位置にします。ブレードの前端と後端について、地面との距離 (B) を測ります。
- ブレードの前端が後端より 1/8 インチ～1/2 インチ (3.1～12.7 mm) 低くなっていない場合は、トラクターの正面に移動します。

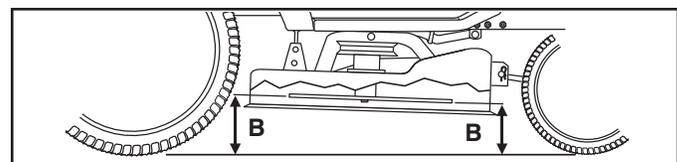


図 30

- 11/16 インチまたは調整タイプのレンチで、薄口ナット A を数回回してゆるめ、調整ナット B を調整可能にします。
- 3/4 インチまたは調整タイプのレンチで前側リンク調整ナット (B) を時計方向 (↻) (締め込む) に回して芝刈機の前側を上げるか、反時計方向 (↻) (緩める) に回して芝刈機の前側を下げます。

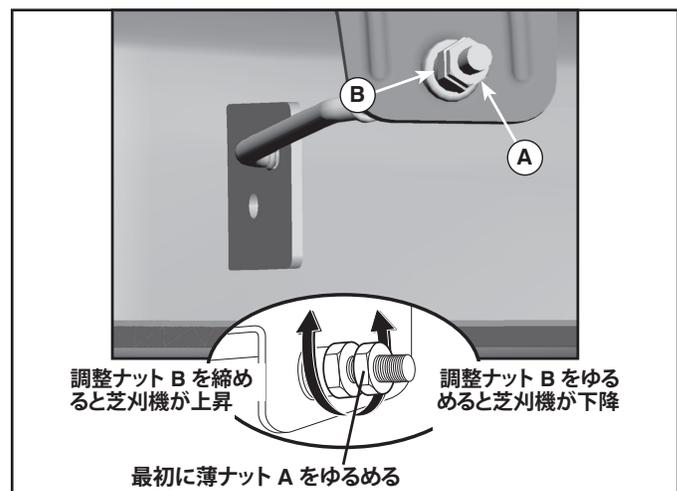


図 31

注記: 調整ナットを一回転させるごとに芝刈機の高さは約 1/8 インチ (3.1 mm) 変わります。

- 再測定し、ブレードの前端が後端より 1/8 インチ～1/2 インチ (3.1～12.7 mm) 低くなるまで適宜調整します。
- 調整ナットをレンチで定位置に支え、薄ナットをしっかりと調整ナットに締め込みます。

サービスと調整

芝刈機のブレードドライブベルトの交換 (図 32 参照)

芝刈機ドライブベルトの取り外し

- トラクターを水平面に駐車します。駐車ブレーキをかけます。
- アタッチメントリフトレバーを一番下の位置まで下げます。
- マンドレルや上デッキ表面全体に蓄積した汚れや刈り取った草を取り除きます。
- 電気クラッチプーリー (M)、両側のマンドレルプーリー (R)、すべてのアイドルプーリー (V) からベルトを外します。

芝刈機ドライブベルトの取り付け

- 図のように、すべてのマンドレルプーリー (R) とアイドルプーリー (V) の周りにベルトを取り付けます。
- 電気クラッチプーリー (M) にベルトを取り付けます。

重要: ベルトがすべての芝刈機プーリー溝を通して適切に経路設定されていることを確認します。

- アタッチメントリフトレバーを一番高い位置に上げます。

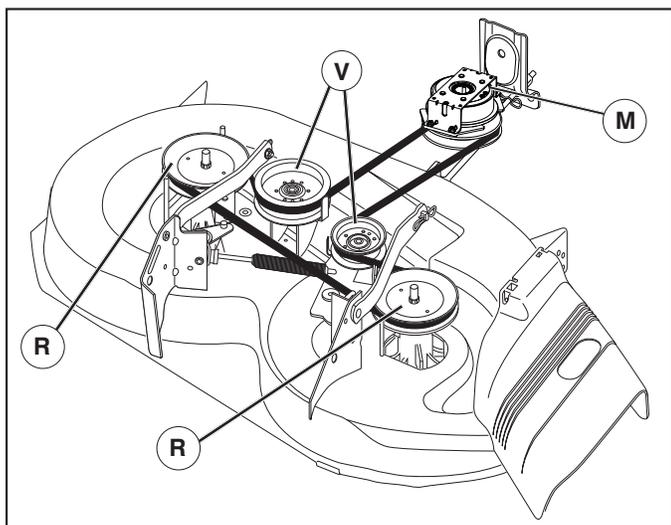


図 32

芝刈機のモーションドライブベルトの交換 (図 33 参照)

トラクターを水平面に駐車します。駐車ブレーキをかけます。位置が示すベルト設置ガイドステッカーが、左フットレスト下部にあります。

ベルトの取り外し

- 芝刈機を取り外す (この取扱説明書の「芝刈機を取り外し」を参照してください)。

注記: 作動ドライブベルト全体と、すべてのベルトガイドおよびベルト通し位置を確認してください。

- クラッチワイヤーハーネス (A) を外します。
- トラクター右側の回り留めリンク (B) を外します。
- 固定アイドル (C) とクラッチアイドル (D) からベルトを外します。
- センターズパンアイドル (E) からベルトを外します。
- ベルトの緩みをトラクター後方へ引きます。トランスミッション入力プーリーと冷却ファンブレード (F) から、上方向へベルトを慎重に取り外します。

- エンジンプーリーと電気クラッチ (G) 周りからベルトを下方向へ取り外します。
- ベルトをトラクターの後方へスライドさせてステアリングプレート (H) から外し、トラクターから取り外します。

ベルトの取り付け

- 新しいベルトを後方から前方へ設置します。ステアリングプレート (H) の上、クラッチブレーキペダルシャフト (J) の上を通します。
- トラクターの前方へベルトを引いて、電気クラッチ周り (G) とエンジンプーリー (G) に巻き付けます。
- ベルトをトラクターの後方へ引きます。ベルトをトランスミッション冷却ファン周り (F) と入力プーリー (F) に慎重に取り付けます。ベルトがベルト通しの中を通っているのを確認する。
- センターズパンアイドル (E) にベルトを取り付けます。
- 固定アイドル (C) とクラッチアイドル (D) にベルトを取り付けます。
- トラクター右側に回り留めリンク (B) を取り付けます。しっかり締め込みます。
- クラッチハーネス (A) を元どおりに接続します。
- ベルトがすべてのプーリー溝にはまり、すべてのベルトガイドとベルト通しを通っていることを確認します。
- 芝刈機を取り付けます (この取扱説明書の「芝刈機を取り外し」を参照してください)。

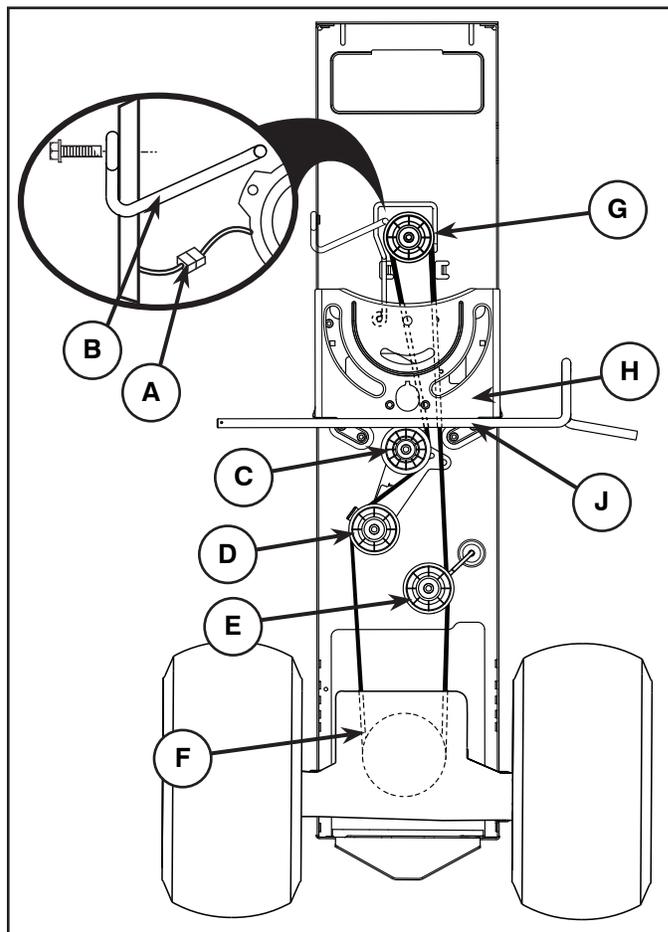


図 33

サービスと調整

ブレーキの点検

トラクターが、平らで乾いたコンクリートまたは舗装面上で、最高ギアおよび最高速度で停止するのに5フィート(1.5 m)以上必要な場合は、ブレーキの保守が必要です。

次の方法でもブレーキの点検ができます。

1. トラクターを平らで乾いたコンクリートまたは舗装面上に駐車し、ブレーキペダルを踏み込んだままで駐車ブレーキをかけます。
2. フリーホイールコントロールを「トランスミッション解除」位置にし、トランスミッションを解除します。フリーホイールコントロールを引き、スロットに入れて離すと、解除位置に保たれます。

手動でトラクターを前へ押そうとすると、後輪はロックしてスリップするはずですが、もし後輪が回転するならば、ブレーキは保守点検が必要です。最寄りのサービス代理店にお問い合わせください。

フロントホイールトーイン／キャンバー

新品のトラクターのフロントホイールのトーインとキャンバーは工場出荷時に標準で設定されています。フロントホイールトーインおよびキャンバーは調整できません。工場設定のフロントホイールトーインまたはキャンバーに損傷がある場合は、最寄りのサービス代理店にお問い合わせください。

ホイールの取り外しと修理(図 34 参照)

- 車軸をしっかりブロックします。
- 車軸カバー、止め輪、ワッシャーを取り外し、ホイールを取り外します(リヤホイールには四角形のキーが付いています。紛失しないようにしてください)。
- タイヤを修理し、再度組み立てます。
- リヤホイールのみ:リヤホイールハブと車軸の溝を揃えます。四角形のキーを挿入します。
- ワッシャーとスナップ止め輪を車軸の溝にしっかりと取り付けます。
- 車軸カバーを交換します。

注記:タイヤのパンクや徐々に空気が漏れることを防ぐには、最寄りの部品販売店からタイヤシーラントを購入してください。タイヤシーラントは、タイヤの乾燥腐敗や腐食も防ぎます。

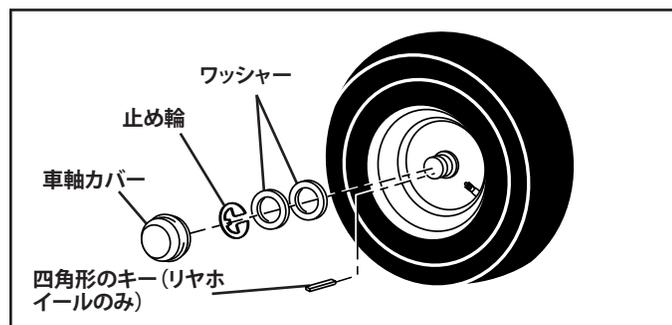


図 34

消耗したバッテリーでのエンジンの始動(図 35 参照)



警告:鉛酸バッテリーでは、爆発性のガスが発生します。火花、炎、喫煙具をバッテリーから遠ざけてください。バッテリーを扱うときは常に保護メガネを装着してください。

バッテリーが充電不足でエンジンを始動することができない場合は、バッテリーを充電してください。(この取扱説明書の「メンテナンス」セクションの「バッテリー」を参照してください。)

緊急始動に「ジャンパーケーブル」を使用する手順は、次のとおりです。

重要:トラクターには 12 ボルトのシステムが装備されています。もう一方の車両にも 12 ボルトのシステムが必要です。本トラクターのバッテリーで別の車両を始動しないでください。

ジャンパーケーブルの取り付け

- 赤いケーブルの一方の端を各バッテリーのプラス(+)ターミナル(A-B)に接続します。トラクターのシャーシに接触して短絡しないように注意してください。
- 黒いケーブルの一方の端を、完全に充電されたバッテリーのマイナス(-)ターミナル(C)に接続します。
- 黒いケーブルのもう一方の端(D)を状態の良いシャーシアースに接続します。このとき、燃料タンクやバッテリーから離れた場所に接続してください。

ケーブルを取り外すには、手順を逆にします。

- 最初にシャーシから黒いケーブルを外し、次に完全に充電されたバッテリーから黒いケーブルを外します。
- 最後に赤いケーブルを両方のバッテリーから外します。

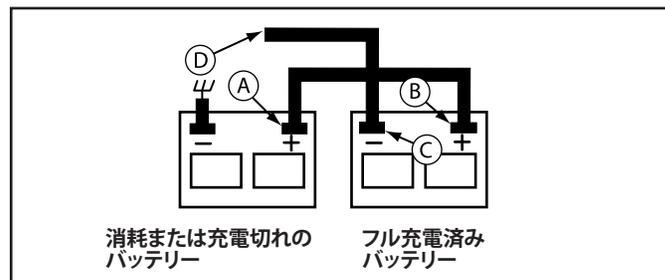


図 35

サービスと調整

バッテリーの交換 (図 36)



警告: バッテリー端子が短絡することを防ぐため、レンチなどの物体が両方の端子に同時に接触しないようにしてください。バッテリーを接続する前に、金属製のブレスレットや腕時計、指輪などを取り外しておいてください。火花で短絡することがないように、プラス端子を先に接続する必要があります。

- フードを上げます。
- 端子カバーを取り外します。
- 黒のバッテリーケーブルを外してから、赤のバッテリーケーブルを外して、トラクターから慎重にバッテリーを取り外します。
- 新しいバッテリーを古いバッテリーと同じ位置に端子で取り付けます。
- 端子カバーを取り付けます。
- まず、図のように、プラス (+) のバッテリーターミナルに赤のバッテリーケーブルをボルトとナットで接続します。しっかり締め込みます。
- もう 1 組のボルトとナットで、黒のアースケーブルをマイナス (-) バッテリーターミナルに接続します。しっかり締め込みます。
- フードを閉じます。

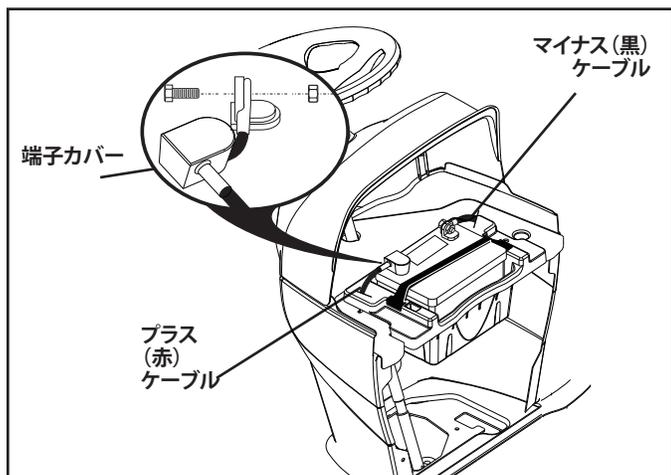


図 36

ヘッドライトバルブの交換

- フードを持ち上げます。
- バルブホルダーをグリル背面の穴から引き出します。
- ホルダー内のバルブを交換し、バルブホルダーをグリル背面穴にしっかりと押し込みます。
- フードを閉じます。

インターロックおよびリレー

配線が緩んだり損傷したりすると、トラクターの動作不良や停止が発生したり、始動しなかったりすることがあります。

- 配線を点検します。

ヒューズの交換

30 A の自動車用プラグインヒューズと交換してください。ヒューズホルダーはダッシュの後ろにあります。

フードとグリルアセンブリの取り外し (図 37 参照)

- フードを持ち上げます。
- ヘッドライトの配線コネクタを外します。
- トラクターの前に立ちます。フードの両側をつかみ、エンジンの方に傾けトラクターから上向きに外します。
- 交換するには、上記の手順を逆に行います。

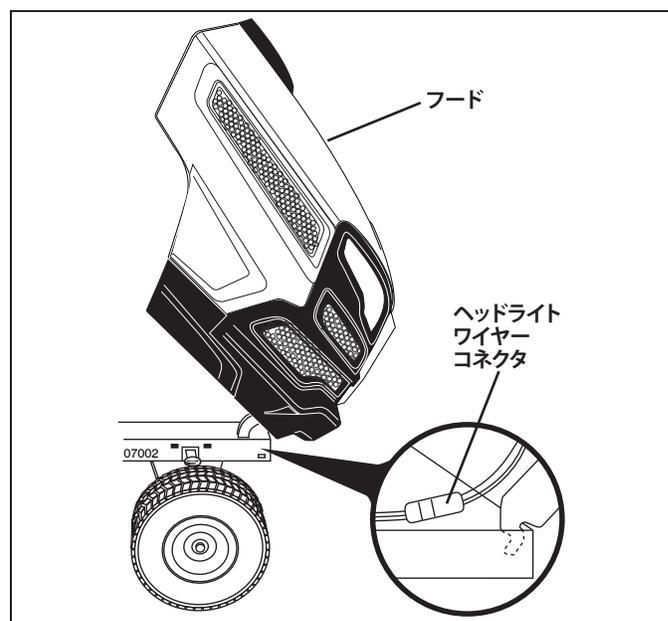


図 37

エンジン

スロットルコントロールケーブルの調整

スロットルコントロールは工場出荷時にあらかじめ設定されているため、調整は不要です。調整が必要な場合は、エンジンの取扱説明書を参照してください。

チョークコントロールの調整

チョークコントロールは工場出荷時にあらかじめ設定されているため、調整は不要です。調整が必要な場合は、エンジンの取扱説明書を参照してください。

トランスミッション

取り外し/交換

サービスや交換のためにトランスミッションを取り外した場合は、再設置した後、トラクターを操作する前にパーズを行う必要があります。この取扱説明書の「操作」セクションの「トランスミッションのパーズ」を参照してください。

保管

シーズン終了時、またはトラクターを 30 日以上使用しない場合は、すぐにトラクターの保管準備をしてください。



警告:タンクにガソリンを入れた状態でトラクターを屋内に保管しないでください。揮発したガソリンが火気や火花に引火するおそれがあります。保管場所に入れる前にエンジンを冷やしてください。

トラクター

冬期の保管のために芝刈機をトラクターから取り外します。芝刈機を長期間保管する場合は、芝刈機を十分に清掃し、すべての汚れ、油、葉などを取り除き、清潔で乾燥した場所に保管してください。

- トラクター全体を清掃してください(この取扱説明書の「メンテナンス」セクションの「清掃」を参照してください)。
- 必要に応じてベルトを点検し、交換します(この取扱説明書の「サービスと調整」セクションのベルトの交換手順を参照してください)。
- この取扱説明書の「メンテナンス」セクションを参照して潤滑剤を塗布します。
- すべてのナット、ボルト、ネジがしっかりと固定されていることを確認します。可動部品に損傷、破損、摩耗がないか点検します。必要に応じて交換します。
- 塗装面の錆や欠けがある部分はすべて修復します。塗装前には軽くやすりをかけます。

バッテリー

- 保管する場合は、バッテリーをフル充電してください。
- 一定期間保管すると、バッテリーの充電が必要になる場合があります。
- 長期間保管する場合は、腐食や漏電を防止するために、バッテリーケーブルを外し、バッテリーを完全に清掃する必要があります。(この取扱説明書の「メンテナンス」セクションの「バッテリーと端子の清掃」を参照してください。)
- 清掃後は、外したケーブルバッテリー端子に接触しない場所に置きます。
- トラクターからバッテリーを取り外して保管する場合は、コンクリートや湿った表面にバッテリーを直接置かないでください。
- ユニットにバッテリーインジケータ／充電プラグが装備されている場合は、オプションの充電ユニットを購入してユニットに接続し、長期間の保管中にバッテリーを充電することができます。チャージャーを接続した状態で長期間保管する前に、必要に応じてバッテリー端子を点検および清掃してください。

エンジン

燃料システム

重要:保管中は、キャブレター、燃料フィルター、燃料ホース、タンクなどの重要な燃料システム部品にゴムが堆積しないようにすることが重要です。また、アルコール混合燃料(ガソールと呼ばれる。エタノール、またはメタノールを使用)は親水性のため、保管中に分離して酸を生じる可能性があることが実例から分かっています。酸性ガスは、保管中にエンジンの燃料システムに損傷を与える可能性があります。

- エンジンを始動して燃料タンクを空にし、燃料ホースとキャブレターが空になるまでエンジンを作動させます。
- 燃料タンクには、エンジンやキャブレターのクリーナー製品を決して使用しないでください。使用すると、永久的な損傷が生じる可能性があります。
- 次のシーズンには新しい燃料を使用してください。

注記:燃料劣化防止剤で、保管中の燃料にガム質が堆積するのを抑制することもできます。燃料タンクまたは保管容器のガソリンに劣化防止剤を加えてください。劣化防止剤の容器に記載されている混合比を必ず守ってください。劣化防止剤を追加した後、少なくとも 10 分エンジンをかけて劣化防止剤がキャブレターに届くようにしてください。燃料劣化防止剤を使用する場合は、ガスタンクとキャブレターを空にしないでください。

エンジンオイル

エンジンが暖まっている状態でオイルを排出し、きれいなエンジンオイルに交換します(この取扱説明書の「メンテナンス」セクションの「エンジン」を参照してください)。

シリンダ

1. スパークプラグを交換します。
2. スパークプラグ穴からシリンダーにオイルを 1 オンス (29.5 ml) 注入します。
3. • スタータキーを数秒間「START」位置にして、オイルを行き渡らせます。
4. 新しいスパークプラグと交換します。

その他

- シーズンで使用したガソリンを次のシーズンまで保管しないでください。
- 錆が発生する場合は、ガソリン缶を交換してください。ガソリンに錆や汚れがあると問題が発生します。
- 可能であれば、トラクターを屋内に保管し、ほこりや汚れから保護するためにカバーをかけてください。
- お使いのトラクターに湿気が入らない適切な保護カバーを取り付けてください。プラスチックを使用しないでください。プラスチックは通気性がないため、結露が発生し、トラクターが錆びることがあります。

重要:エンジンや排気エリアがまだ温かいときは、決してトラクターにカバーをかけないでください。

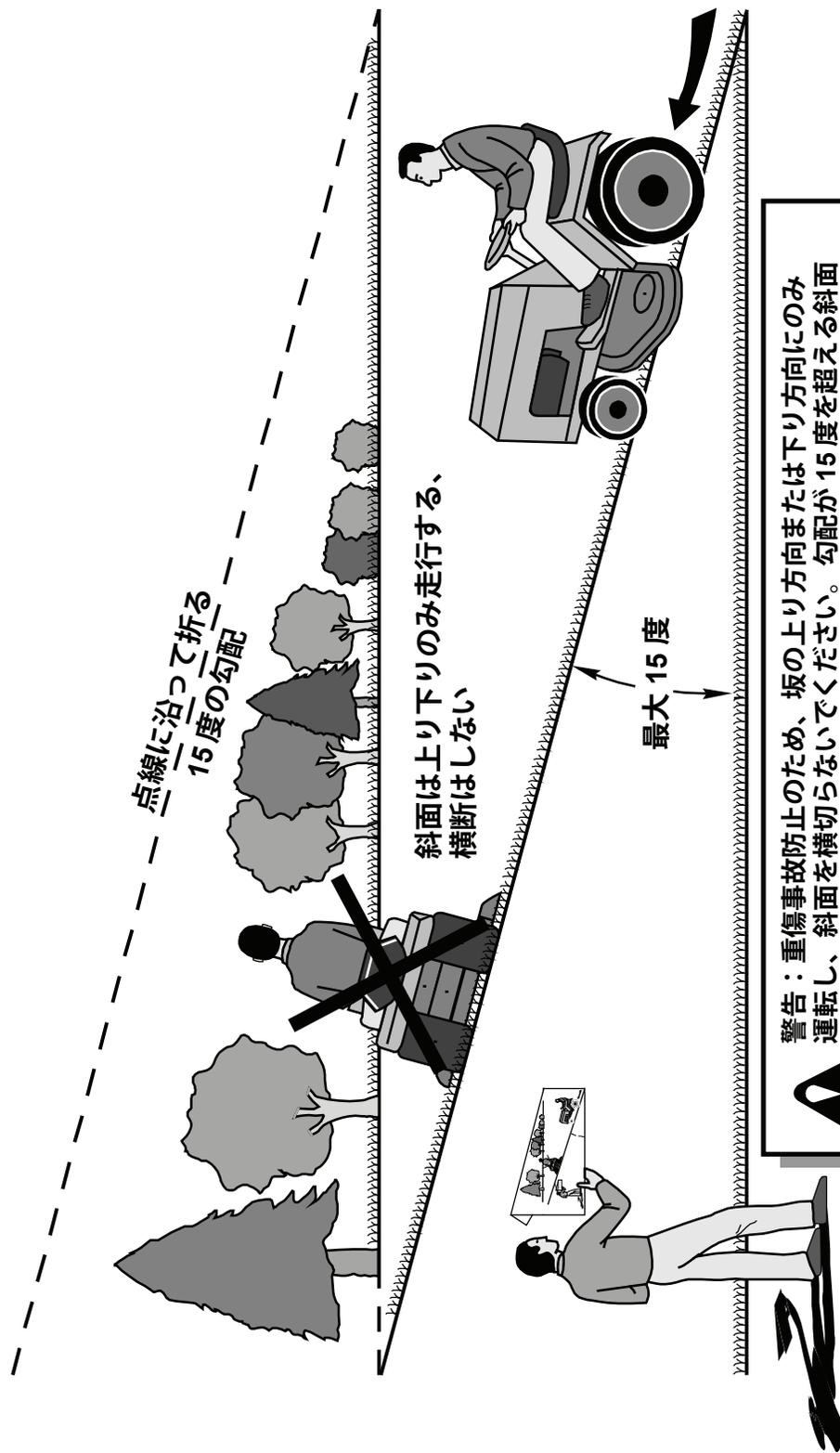
トラブルシューティングポイント

問題	原因	解決策
始動しない	<ol style="list-style-type: none"> 1. 燃料切れ。 2. エンジンが適切に「チョーク」されない。 3. エンジンが燃料過多になっている。 4. スパークプラグに欠陥がある。 5. エアフィルターの汚れ。 6. 燃料フィルターの汚れ。 7. 燃料に水が混入している。 8. 配線の緩みまたは損傷。 9. エンジンバルブ調整不良。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 燃料タンクを充填します。 2. 「操作」セクションの「エンジンの始動」を参照してください。 3. 数分待ってから始動します。 4. スパークプラグを交換します。 5. エアフィルターを清掃／交換します。 6. 燃料フィルターを交換します。 7. 燃料タンクとキャブレターを空にして、タンクに新しいガソリンを充填し、燃料フィルターを交換します。 8. すべての配線を点検します。 9. 最寄りのサービス代理店にお問い合わせください。
始動しにくい	<ol style="list-style-type: none"> 1. エアフィルターの汚れ。 2. スパークプラグに欠陥がある。 3. バッテリーが消耗しているかバッテリーが切れている。 4. 燃料フィルターの汚れ。 5. 古い燃料または汚れた燃料。 6. 配線の緩みまたは損傷。 7. エンジンバルブ調整不良。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. エアフィルターを清掃／交換します。 2. スパークプラグを交換します。 3. バッテリーを充電または交換してください。 4. 燃料フィルターを交換します。 5. 燃料タンクを空にし、タンクに新しいきれいなガソリンを充填します。 6. すべての配線を点検します。 7. 最寄りのサービス代理店にお問い合わせください。
エンジンが回らない	<ol style="list-style-type: none"> 1. ブレーキペダルが解放されていない。 2. アタッチメントクラッチが作動している。 3. バッテリーが消耗しているかバッテリーが切れている。 4. ヒューズが切れている。 5. バッテリー端子が腐食している。 6. 配線の緩みまたは損傷。 7. イグニションスイッチが故障している。 8. ソレノイドまたはスタータが故障している。 9. オペレータ着座検知スイッチに障害がある。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. ブレーキペダルを解放します。 2. アタッチメントクラッチを解除します。 3. バッテリーを充電または交換してください。 4. ヒューズを交換します。 5. バッテリーと端子を清掃します。 6. すべての配線を点検します。 7. イグニションスイッチを点検／交換します。 8. ソレノイドまたはスタータを点検し、適宜交換します。 9. 最寄りのサービス代理店にお問い合わせください。
エンジンからカチッという音がするが始動しない	<ol style="list-style-type: none"> 1. バッテリーが消耗しているかバッテリーが切れている。 2. バッテリー端子が腐食している。 3. 配線の緩みまたは損傷。 4. ソレノイドまたはスタータが故障している。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. バッテリーを充電または交換してください。 2. バッテリーと端子を清掃します。 3. すべての配線を点検します。 4. ソレノイドまたはスタータを点検し、適宜交換します。
パワー不足	<ol style="list-style-type: none"> 1. 刈り取る芝が多すぎるか速度が速すぎる。 2. スロットルが「チョーク」ポジションにある。 3. 芝刈機の下に草、葉、ゴミがたまっている。 4. エアフィルターの汚れ。 5. 油面が低下している／オイルが汚れている。 6. スパークプラグに問題がある。 7. 燃料フィルターの汚れ。 8. 古い燃料または汚れた燃料。 9. 燃料に水が混入している。 10. スパークプラグワイヤーが緩んでいる。 11. エンジンの風よけ／フィンが汚れている。 12. マフラーが汚れている／詰まっている。 13. 配線の緩みまたは損傷。 14. エンジンバルブ調整不良。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 刈高を上げるか速度を下げます。 2. スロットルコントロールを調整します。 3. 芝刈機のハウジングの下側を清掃します。 4. エアフィルターを清掃／交換します。 5. 油面をチェックし、オイルを交換します。 6. スパークプラグの清掃、隙間の調整、または交換を行います。 7. 燃料フィルターを交換します。 8. 燃料タンクを空にし、タンクに新しいきれいなガソリンを充填します。 9. 燃料タンクとキャブレターを空にして、タンクに新しいガソリンを充填し、燃料フィルターを交換します。 10. スパークプラグワイヤーを接続し、締め付けます。 11. エンジンの風よけ／フィンを清掃します。 12. マフラーを清掃／交換します。 13. すべての配線を点検します。 14. 最寄りのサービス代理店にお問い合わせください。
過多の振動	<ol style="list-style-type: none"> 1. ブレードの摩耗、曲がり、緩み。 2. ブレードマンドレルが曲がっている。 3. 部品が緩んでいる／損傷している。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. ブレードを交換します。ブレードのボルトを締めます。 2. ブレードマンドレルを交換します。 3. 緩んだ部品を締め付けます。破損した部品は交換してください。

トラブルシューティングポイント

問題	原因	解決策
作業者がアタッチメントクラッチをかけたままシートを離れたときにエンジンが作動し続ける	1. オペレータ着座検知コントロールシステムが故障している。	1. 配線、スイッチ、および接続を点検します。解決しない場合は、最寄りのサービス代理店にお問い合わせください。  注意: 問題が解決するまでは、装置を運転しないでください。
刈取り性能の低下 - 不均一	1. ブレードの摩耗、曲がり、緩み。 2. 芝刈機デッキが水平ではない。 3. 芝刈機の下に草、葉、ごみがたまっている。 4. ブレードマンドレルが曲がっている。 5. マンドレルの周りに草、葉、ごみがたまっているために、芝刈機デッキの通気口が詰まっている。	1. ブレードを交換します。ブレードのボルトを締めます。 2. 芝刈機デッキを水平にします。 3. 芝刈機のハウジングの下側を清掃します。 4. ブレードマンドレルを交換します。 5. マンドレルの周りを清掃して、通気口を開けます。
芝刈機のブレードが回転しない	1. クラッチメカニズムに障害物がある。 2. 芝刈機ドライブベルトが摩耗／損傷している。 3. アイドラプリーが凍っている。 4. ブレードマンドレルが凍っている。	1. 障害物を取り除きます。 2. 芝刈機ドライブベルトを交換します。 3. アイドラプリーを交換します。 4. ブレードマンドレルを交換します。
芝の排出不良	1. エンジン速度が遅すぎる。 2. 走行速度が速すぎる。 3. 草が濡れている。 4. 芝刈機デッキが水平ではない。 5. タイヤ空気圧が低い／不均一。 6. ブレードの摩耗、曲がり、緩み。 7. 芝刈機の下に草、葉、ごみがたまっている。 8. 芝刈機ドライブベルトが摩耗している。 9. ブレードが正しく取り付けられていない。 10. 不適切なブレードが使用されている。 11. マンドレルの周りに草、葉、ごみがたまっているために、芝刈機デッキの通気口が詰まっている。	1. スロットルコントロールを「FAST」の位置にします。 2. 低速にシフトします。 3. 芝が乾燥してから刈ってください。 4. 芝刈機デッキを水平にします。 5. タイヤの空気圧が適切であるか点検します。 6. ブレードを交換します。ブレードのボルトを締めます。 7. 芝刈機のハウジングの下側を清掃します。 8. 芝刈機ドライブベルトを交換します。 9. エッジが鋭い方を下にしてブレードを取り付けます。 10. パーツマニュアルに記載されているブレードと交換します。 11. マンドレルの周りを清掃して、通気口を開けます。
ヘッドライトが点灯しない (装備している場合)	1. スイッチが「OFF」になっている。 2. 電球またはランプが切れている。 3. ライトスイッチが故障している。 4. 配線の緩みまたは損傷。 5. ヒューズが切れている。	1. スイッチを「ON」にします。 2. 電球またはランプを交換します。 3. ライトスイッチを点検／交換します。 4. 配線および接続を点検します。 5. ヒューズを交換します。
バッテリーが充電されない	1. バッテリーセルの不良。 2. ケーブル接続の不良。 3. レギュレーターが故障している(装着している場合)。 4. オルタネーターが故障している。	1. バッテリーを交換します。 2. すべての接続を点検／清掃します。 3. レギュレーターを交換します。 4. オルタネーターを交換します。
駆動しない	1. フリーホイールコントロールが「解除」の位置にある。 2. ステアリングプレートに異物がある(装着している場合)。 3. 作動ドライブベルトの摩耗、損傷、または破損。 4. 搬送中または保守中に、空気がトランスミッションにたまる。 5. アクスルキーがない。	1. フリーホイールコントロールを「作動」位置にします。 2. 「メンテナンス」セクションの「清掃」を参照してください。 3. 作動ドライブベルトを交換します。 4. トランスミッションをバージします。 5. アクスルキーをリヤホイールに取り付けます。「サービスと調整」セクションの「ホイールの取り外し」を参照してください。
エンジンを「オフ」にしたときのエンジンの「バックファイヤ」	1. エンジンを停止する前に、エンジンスロットルコントロールが半分(速度と最高速度(高速)の間)に設定されていない。	1. エンジンを停止する前に、スロットルコントロールを半分(速度と最高速度(高速)の間)に動かします。
後退すると エンジンが停止する	1. 芝刈機または他のアタッチメントが作動している間に、後退操作システム(ROS)が「ON」にならない。	1. スタータキーを ROS 「ON」の位置まで回します。「操作」セクションを参照してください

安全運転のために斜面を確認する方法についての推奨ガイド



1. このページを、上の点線に沿って折ります。
2. このページを目の前に持ち、ページの左端が、木の幹などの直立したものと平行になるようにします。
3. 測りたい斜面の向きと、折り目の向きを合わせます。
4. 折り目の角度と斜面の勾配を比較します。

サービスノート

サービスノート

サービスノート



www.husqvarna.com